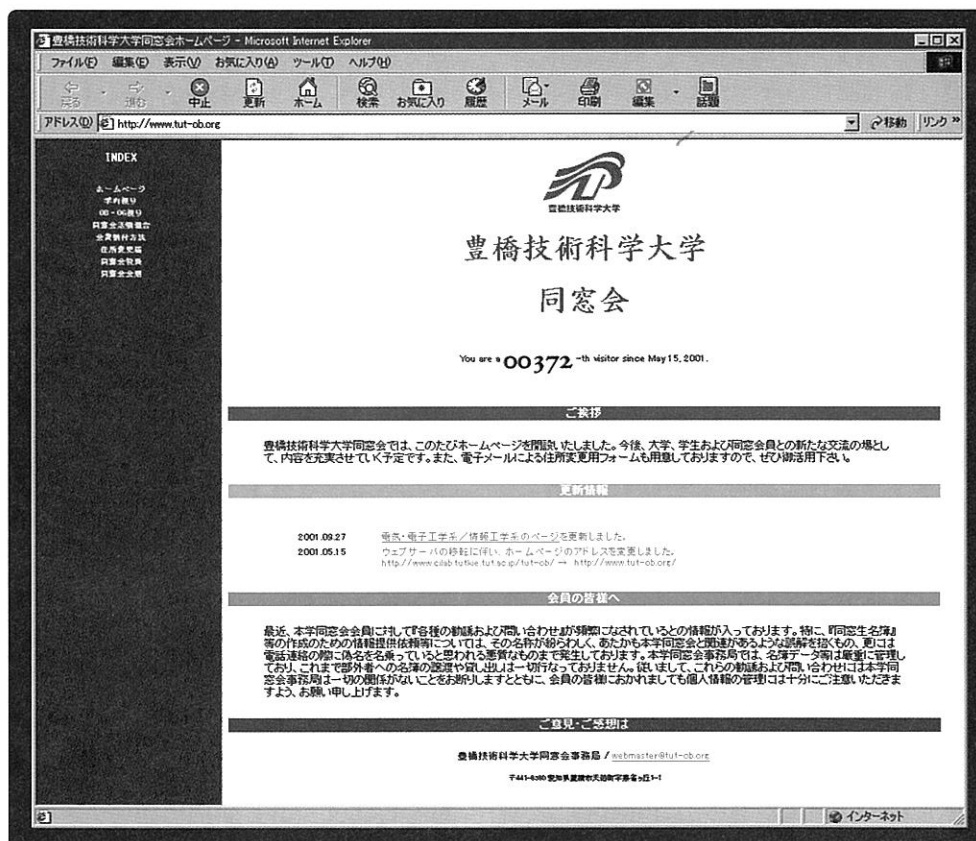


同窓会報

No. 19



豊橋技術科学大学



2002

最近の大学事情



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問

学長 後藤圭司

最近の大学事情をカレンダーの順序で報告いたします。

平成12年12月に大学院修士課程に英語特別コースを開設しました。これは講義など全てを英語のみで行うコースであり、英語圏へ流れる優秀な留学生を本学へ導くのに役立つと考えます。日本の学生にも門戸を開いています。

平成13年1月に「豊橋技術科学大学—変革の時代に向かって—」をまとめました。これは外部評価を受けるための自己点検資料であり、本学の目標と改革の方向、教育研究組織と運営、教育活動、研究活動、国際交流、社会との連携、高専との連携などの現状報告がなされています。そこには全教官および学生に対して行った「教育に関するアンケート調査」のまとめも含まれています。この資料に基づいて外部評価を2月に実施し、4月にその報告書を公表しました。本学の目標は「高専連合の重点的な大学院大学で国際的に通用する大学を目指す」としましたが、外部評価での指摘もあり、本学を取り巻く社会状況が不透明な中では、改革の方向を固定することなく柔軟な対応が必要となっています。

4月に工学教育国際協力研究センターが設置されました。これは、開発途上国に対する我が国の国際教育協力を推進するための研究拠点として、工学分野において全国で初めて本学に設置されたものです。工学教育ネットワーク開発研究部門と工学プロジェクト開発研究部門で構成されています。

6月に国立大学長会議が開催され、文部科学省から「大学（国立大学）の構造改革の方針—活力に富み国際競争力のある国公立大学づくりの一環として—」が打ち出されました。これは「遠山プラン」ともいわれ、国の経済財政構造改革の骨太の方針に組み込まれたものです。その内容は国

立大学の再編・統合を大胆に進める→スクラップ・アンド・ビルドで活性化、国立大学に民間的発想の経営手法を導入する→新しい「国立大学法人」に早期移行、大学に第三者評価による競争原理を導入する→国公私「トップ30」を世界最高水準に育成、となっています。

義務化された国立大学の外部評価は平成12年度に全学テーマ別評価 {教育サービス面における社会貢献と教養教育} 及び分野別教育評価と分野別研究評価 {理学と医学のそれぞれ6機関} を実施。平成13年度は全学テーマ別評価 {教養教育（継続分）と研究活動面における社会との連携及び協力} 及び分野別教育評価と分野別研究評価 {法学、教育学、工学の分野毎に6機関} が着手されることになっています。

平成11年に日本技術者教育認定機構（JABEE）が設立され、12年度には19機関の20学科が試行審査を受けました。13年度には本学の電気系が試行審査を受ける予定です。技術者倫理、コミュニケーション能力、基礎学力などが重視され、実地視察も行われ、国際的に通用する教育がなされているかが審査されます。

いま最大の関心事は、本年中にまとめられる予定の国立大学法人化の具体案、前述の分野別研究評価によって決められるというトップ30の大学、さらには今後予想される国立大学の再編・統合の動向ですが、いずれも来年早期には明らかになりそうです。

終わりに、小職は平成14年3月をもって任期満了・退官いたします。平成8年に就任し開学20周年を祝って以来、6年が経過しようとしています。全ての国立大学はいま改革の渦中にありますが、あと1、2年で決着しそうです。同窓生皆さんの今後にわたる本学へのご支援をお願いいたします。

学内近況報告

第一工学系

機械システム(旧エネルギー)工学系より

学内近況報告

機械システム工学系 畔上 秀幸

卒業生、修了生の皆様、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。皆様のご活躍が本学の評価を高めていることを耳にするたびに本学の教官の一人として大変嬉しく思っております。大学の直接的な社会貢献が強く求められるようになって参りましたが、内心は皆様に社会に送り出したことが何よりの社会貢献ではないかと思っております。今後益々のご活躍を期待しております。

さて、恒例となりました同窓会会報第18号(平成12年12月)以降の系内の動向をお伝えします。まずは教職員の移動についてお知らせします。平成13年3月に李長生先生が中国、燕山大学、材料化工学院へ転出されました。4月には北村健三先生が教授に昇任されました。また、佐野滋則先生が理化学研究所バイオ・ミメティクスコントロール研究センターより助手に着任されました。本間寛臣先生は新設の工学教育国際協力研究センター教授に移動されました。また、畔上秀幸が技術開発センター助教授に移動となりました。両先生共に、移動後も学生指導はご担当されます。8月末には内山直樹先生が1年間の予定でアメリカ、カリフォルニア大学デービス校に文部省在外研究員として派遣されました。系事務室では小野田貴幸さんが会計課用度第1係に移動となり、研究協力課研究協力係から竹村圭子さんが着任されました。



就職状況については、深刻な不況ではありますが、本系の学生に対する求人数は昨年度よりも増加しております。特に、推薦が多少増加する結果となりました。就職希望の学生はほとんど夏休み前に内定しております。これも先輩諸君の活躍があつての結果であると思えます。

末筆となりましたが、皆様のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。

[第一講座：熱・流体工学講座]

教授：三田地紘史、日比 昭(系長)、北村健三
助教授：中川勝文、柳田秀記、鈴木孝司

[第二講座：エネルギー変換工学講座]

教授：小沼義昭、蒔田秀治、高木章二
助教授：野田 進、鈴木新一
講師：内山直樹
助手：山本和弘、関下信正、佐野滋則

[第三講座：機器設計学講座]

教授：竹園茂男、本間寛臣(工学教育国際協力研究センター)、
上村正雄
助教授：埜 克己、畔上秀幸(技術開発センター)、
関東康祐
助手：感本広文、竹市嘉紀(技術開発センター)
教務職員：グナワン・フェルギアント・エフェンデ

[技 官] 徳増 学、神谷昌宏

[事 務] 竹村圭子、野亦真理子



訃 報

平成13年1月26日に草鹿履一郎先生が、3月6日に斎藤武先生が相次いでご逝去されました。ここに慎んで追悼の意をささげます。

草鹿先生をしのんで

第1工学系 鈴木 新一

本年1月26日、草鹿履一郎先生が亡くなられました。私は1980年から1991年までの11年間、草鹿先生の下で研究させて戴きました。その間、多くのことを御教示戴きましたが、なかでも、「指導者とは如何なるものか」を、身をもってお示し戴いたことが、その後の私にとって大きな財産となりました。

私が草鹿先生の下で研究していた間、先生は出来る限りの研究費と研究の自由を与えて下さいました。しかし研究費の使い道を私に尋ねられたことは一度もありませんでした。「援助はするが口は出さない」を実践されていたのです。このことは、30歳代前半の若い研究者にとっては、夢のような環境です。その御蔭で私は、この時期に、現在の研究の基礎を築くことが出来ました。

指導者とかリーダーと呼ばれる人たちには幾つかの型があります。成功すればご褒美を与え、失敗すれば首にするような「飴と鞭」派。ひとつの専門的技能に優れ、それによって指導者となっている「職人」派。行動力で細かいことなど笑い飛ばそうという「体育会系」派、等々……。しかし「援助はするが口は出さない」ということを本当の意味で実践出来るためには、上記の様な指導者であるだけでは不十分であり、更にもう一段上の優れた指導力を持つ必要があります。それは優れた「人格」と呼ぶ方が相応しいものかも知れません。草鹿先生は、それを持っていらっしゃると思います。

草鹿先生のお父上は旧日本海軍の草鹿中将であり、また、先生は禅の思想にも強い関心をお持ちでした。草鹿先生の優れた御人格の中心には、これらを背景にした歴史観や国家観があったように思います。先週はアメリカで同時多発テロが発生し、世界が不安定な時代に入るのではないかと危惧されています。この様なニュースが流れる度に、私はよく「草鹿先生なら何とおっしゃるだろう？」と思います。草鹿先生は、亡くなられても尚、私たちの心の中で生きていらっしゃると思います。

斎藤 武 先生を偲んで

第1工学系 三田地 紘史

平成13年3月6日の早朝、斎藤武先生は心不全のため逝去されました。86歳の生涯でした。心から哀悼の意を表させていただきます。

先生は札幌生まれで、昭和14年に北海道帝国大学機械工学科をご卒業後、同大学に勤務され、定年を迎えるまで約40年間、北海道大学で教育・研究の途を歩まれました。この間、日本機械学会副会長、日本伝熱学会会長などを歴任されております。ご専門は、蒸気動力、工業熱力学、伝熱工学の分野でしたが、札幌オリンピックを前に大問題となっていた冬季の暖房による大気汚染の防止のため、札幌市中央部の地域熱供給システムの導入に大きく貢献されるなど、当時から環境問題にも深い関心を向けておられました。

昭和53年春、先生は初代副学長として豊橋技術科学大学に赴任されました。創設当初の困難な時期に、先生は学長を助けて、教育研究組織や研究施設の整備、大学院の設置などに多大な貢献をされました。

折にふれ先生は色紙に「和を以て貴と為す」と大書され、また学内では、いつも和やかな雰囲気醸し出そうとされていました。強烈な個性の持ち主が寄り集り、それぞれに出身大学のカルチャーを主張するので、バラバラになりがちな本学のベクトルを一方向に束ねるのにだいぶ心を砕かれたようでしたが、先生の高い識見とバランス感覚、巧みで円滑な運営手腕などは、開学直後の本学が最も必要としたものでした。

当時、先生は学生の就職先を心配され、技科大の知名度を上げるべく、多くの企業を訪問されました。トヨタ、三菱重工、石川島播磨重工、シャープ……等々。訪問先では、駅に公用車で迎えられ、専務同行で工場見学し、その際の説明者はすべて部長以上、とにかくすごいもてなしでした。昼食時などは、事業所長を筆頭に3-4名の幹部が列席し、鞆持ちとしてお供した私には、食事の味などまるでありませんでした。

警察のパトカーが前方を走っているときに、これを追い越すにはかなりの勇気が必要です。いや、私なら決して追い越しません。先生は運転がとても丁寧であり、どんなに急ぐ時でも法定速度を幾分下回る速度を保たれました。このため朝夕の通勤時には、北山の合同宿舎から大学に続く一本道で、先生の愛車を先頭に、大学関係者の2ヶ台にせまる車が連なる事があり、なかなかの壮観でした。口さがない合同宿舎の人達はこれを大名行列と呼んで揶揄しておりました。

斎藤武先生、長い年月にわたり暖かくご指導いただき、ほんとうに有難うございました。生まれ育ちこよなく愛した北の大地に、どうか安らかに眠り下さい。

研究室だより

システム制御工学講座の近況

機械システム工学系助手 佐野 滋 則

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍なさっていることかと存じます。

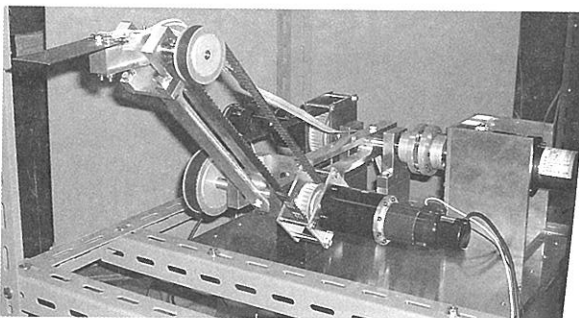
さて、システム制御工学講座（高木研究室）は高木章二教授のもと、主にさまざまなロボットを自作し、その制御に関する研究をしています。現在の構成は、今年の9月から約1年間アメリカで精力的に研究しながら、学生を遠隔操作なさっている内山直樹講師と、助手として今年から高木研にお世話になっている私と、学生14名（修士2年5名、修士1年3名、4年生6名）です。

研究室には昼夜を問わず、学生の出入りがあります。4年生は特別研究に向け、修士2年生は修士論文に向けて、日夜がんばっております。修士1年生も講義と来年度の修士論文に向けての研究に精力的にがんばっております。

現在研究室では、人間の目や首を想定した、ビジュアルサーボロボット、落下物体をやさしく受け止めることを目標にした人の手に相当する腕ロボット、工場のクレーンを想定した、釣りざおとリールのような形のクレーンロボットなど、自作のロボットがたくさんあります（写真を参照）。ビジュアルサーボロボットでは対象物をカメラで捉え続けるように制御します。将来的には移動できるようにして、対象物を追いかけるようにしたいと考えています。また、腕ロボットでは、生卵を割れないようにキャッチすることが目標です。クレーンロボットでは荷物がゆれないように運搬することを目標としています。

その他にもいろいろありますので、お近くにお寄りの際には、お気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心より歓迎させていただきます。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様の今後の更なるご活躍・ご発展を心よりお祈り申し上げます。



混相流工学研究室の近況

機械システム工学専攻 修士2年 夏目 知 尚

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場にてご活躍なさっていることと存じます。

さて、現在、研究室は中川勝文助教授の下、博士課程3年1名、修士課程2年2名、1年2名、学部4年4名で構成されています。このうち、学部4年に1人留学生がいます。

研究室の研究テーマは大きく分けて3つに分類されます。二相流エジェクタを用いた冷凍サイクルに関する研究、先細末広ノズルによる単成分二相流の減圧加速に関する研究、超音波印加による伝熱促進に関する研究。そして、地球温暖化防止が叫ばれているため、冷凍サイクルにおいては、代替フロンとは別進行として、CO₂での冷凍サイクルを想定して、その第一段階が動き始めています。例年通り、学生たちはそれぞれがこれらの中で違うテーマをもち、それぞれに活気ある研究を行っています。そして、今はもう10月。学生たちは研究の期限を前に四苦八苦しなげに、夜遅くまで研究室の明かりが消えることなく、日夜研究をしています。

今年の研究室行事は、例年と同じく、花見から始まり、新入生歓迎会、そして、研究室旅行などがありました。研究室旅行は長野県小県郡長門町へ行き、乗馬、バーベキュー、そして、蕎麦打ち等を行いました。今年は諸先輩方のご参加がなかったので、今回は時間が許す方はご参加下さると嬉しいです。今後は、もちろん、TUTプロレス、開学記念駅伝の参加など色々あります。

研究室の近況の詳細は、研究室のホームページ (<http://www.nak.mech.tut.ac.jp/default.htm>)にて公開しています。時間が許す範囲でご覧になっていただければ幸いです。また、豊橋方面へ来られることがありましたら、どうぞお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心より歓迎させていただきます。最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なる躍進・ご発展をお祈りしております。



研究室だより

構造健全性工学研究室の近況

機械・構造システム工学専攻1年 中本久志

卒業生・修了生の皆様、その後いかがお過ごしでしょうか。大学での経験を糧にそれぞれご活躍していただけることと存じます。

本間研改め構造健全性工学研究室は、本間寛臣教授、Fergyanto E Gunawan教務職員の2名のスタッフと博士後期課程1名、修士課程9名、学部4名、研究生1名の総勢17名で構成されております。そのうち、インドネシア、中国から留学生4名を迎えておりまして、常時研究室内で英語が飛び交う国際派研究室です。日本人学生は身振り手振りを交えて何とか対応しており、コミュニケーションもばっちりです。今年の12月にも修士課程英語コース入学のために留学生1名が新たに加わる予定です。また今年度から本間寛臣教授は、機械工学系所属から工学教育国際協力研究センター(ICCEED)所属となりました。

さて、現在の研究室における研究テーマを大別して紹介いたします。①傾斜機能材料の強度解析(き裂進展、傾斜機能)、②複合材料の低エネルギー衝撃損傷(粒子衝撃、層間はく離)、③衝撃破壊力学に関する研究(短パルス応力拡大、き裂成長)、以上の3テーマについて学生一同、熱意と好奇心をもって研究に励んでおります。各研究に関する詳細につきましては、各論文を参照していただきたく存じます。研究室の設備は、平成9年の研究室再構築(本間教授長期インドネシア滞在のため)のころから比べると大変充実しております。例えば、光学顕微鏡(KEYENCE)の導入やPCの大幅増加をおこないました。しかし何といっても大きな目玉は、TRY高速加速装置の導入です。これは、粒子速度が400m/secを超える(ボーイングB747水平飛行時:320m/sec)もので、衝撃破壊力学に関して新たな知見を得ることができる、と期待しております。

研究室での行事は、夏休み期間中の研究室旅行をはじめ、四季折々・何かと理由をこじつけた節目におこなう宴会、日本機械学会東海学生会主催・島山杯ソフ



トボール大会への出場など、盛ん過ぎる感があるほど熱心におこなっております。今年の福井県への研究室旅行では研究室メンバー全員、定置網漁を体験しました。網引きを手伝う者、船酔いに倒れる者、船の上で寝る者、と楽しみ方はさまざまでしたが、皆非常に興奮して有意義な旅行となりました。

現在、構造健全性工学研究室は、学部4年および修士2年の論文作成に向け、たいへんあわただしい雰囲気です。いつの日か「世界の本間研」と呼ばれることを夢見て、学生一同がんばっております。卒業生・修了生の皆様におかれましては、豊橋へお越しの際は是非本研究室へお立ち寄りいただきまして、ご助言等いただけましたら幸甚です。最後になりましたが、諸先輩方の更なるご躍進をお祈りしまして、構造健全性工学研究室の研究室便りを終わらせていただきます。ありがとうございました。

平成12年度就職先一覧

修 士	
アイシン エイ ダブリュ精密	日本鋼管(株)
アイシン精機(株)	日本特殊陶業(株)
旭硝子(株)	日本無機(株)
アスモ(株)	日立化成工業(株)
アラコ(株)	日立金属(株)
(株)インテライト	(株)日立製作所
宇宙技術開発(株)	(株)日立ビルシステム
SMC(株)	富士機械製造(株)
NOK(株)	フジクリーン工業(株)
(株)キーエンス	富士電気化学(株)
(株)ケイズ	(株)フジユニバース
コニカ(株)	(株)ブリヂストン
小松フォークリフト(株)	本田技研工業(株)
シナノケンシ	松下寿電子工業(株)
(株)島津製作所	三井金属鉱業(株)
(株)スギノマシン	三菱電機ビルテクノサービス(株)
スズキ(株)	ヤンマーディーゼル(株)
スター精密(株)	雪印乳業(株)
中央発条(株)	ユーアイ電子(株)
東京エレクトロン山梨(株)	リンナイ(株)
(株)トヨタシステムリサーチ	(株)ワイ・イー・シー
(株)豊田自動織機	博士課程進学 3名
トヨタマックス	
学 部	
アラコ(株)	マックス(株)
エヌティーツール(株)	ミノル工業(株)
エンケイグループ	三和工機(株)
東京エレクトロンFE(株)	村田製作所
富士通ゼネラル(株)	名鉄自動車整備(株)

第一工学系同窓会収支報告

(平成12年度分 単位:円)

収 入	
H11年度からの繰越金	2,641,111
終身会費(61人分)	610,000
利 息	1,054
合 計	3,252,165
支 出	
1系同窓会報印刷費	44,160
会報発送費	151,340
アルバイト代	32,000
生花・弔電代(2件)	40,166
H13年度への繰越金	2,984,499
合 計	3,252,165

第二工学系

豊友会

—for you—

(生産システム工学系同窓会会報)

学内近況報告

製錬工学研究室 横山 誠二

生産システム工学系の卒業生、修了生の皆様、お元気でしょうか。各職場で御活躍のことと思います。

当系は小林系長を中心に教職員一同研究、教育に励んでおります。系としては、昨年度作成した和文パンフレット、入試用パンフレット等の配付、ならびに1年次学生への研究室見学、高専からの実習生の受け入れなどの努力により、入学状況は良好です。また、実務訓練先や来春卒業、修了予定者の就職も例年通り良好のようです。これらはひとえに皆様の御活躍があったのことと思います。これまで当系ではTOEICを学生さんに受験してもらい、英語の向上をはかってきましたが、これまでの反省と社会のニーズを踏まえ、TOEICにおいて所定の点数に達しない学生に対しては厳しく対応することになりました。また、現在はJABEEに対応すべく行動を起こしています。

さて、教職員の移動につきまして簡単に御報告いたします。平成13年3月に計測システム研究室の北川孟教授が定年退官されました。先生は退官時に図書館長をされており、退官の際には多数の図書を図書館に寄贈されました。また、系事務を担当されていた永井静事務官が図書館に転任され、4月より7系の大澤教授の秘書をされていた大村はる子さんを事務にお迎えし、系事務を切り盛りしていただいております。10月には、岐阜高専から来られていた北川秀夫助教授(システム制御研究室)が岐阜高専に戻りましたが、先生は研究の都合でしばらくの間本学に来られます。また、材料機能制御研究室の劉志光助手がドイツのウルム大学に転出されました。さらに、材料保証学研究室の戸田裕之助教授がイギリスのサザンプトン大学に

1年間(平成14年10月まで)留学されます。ドイツ、イギリス出張等の折に両先生を訪問されてはいかがでしょう。最後に平成14年3月に接合加工研究室の星鐵太郎教授(工作センター長)が定年を迎えられます。大学は国立大学独立行政法人化、それに関連した大学の統廃合等目前に大問題を抱えております。このような中、有為な人材の流出、不在は当系としては頭の痛いところです。

その他の当系の近況につきましては下記ホームページで随時報告しておりますので御覧下さい。

<http://www.tutpse.tut.ac.jp/>

末筆ながら、皆様の御健康と益々のご発展を御祈念いたすとともに、近くへお越しの際には大学にお立ち寄り下さり、近況等お話し下さるようお願い申し上げます。

[加工学講座]

教授 : 星鐵太郎(工作センター長)、堀内 幸、森謙一郎

助教授・講師 : 牧清二郎、福本昌宏、鈴木浩文

助手・技官 : 原田泰典、澁谷秀雄、小楠和彦、椿 正己

[材料工学講座]

教授 : 小林俊郎(系長)、川上正博、梅本 実

助教授・講師 : 竹中俊英、土谷浩一、戸田裕之、横山誠二

教務職員 : 森田繁樹

[生産計画学講座]

教授 : 清水良明(系長補佐)、寺嶋一彦

助教授・講師 : 三宅哲夫、堀畑 聡(工作センター)

助手 : 柳 在圭、矢野賢一、北島禎二

[系共通研究室]

教授 : 新家光雄

助手 : 福永啓一、赤堀俊和(工作センター)

[系事務] 大村はる子

退任のごあいさつ



加工学講座・教授 工作センター長

星 鐵太郎

この3月をもって、65才の定年により退官いたしますにつき、卒業生の皆様へごあいさつ申し上げます。

当職は、開学2年目の昭和54年（1979）から、前任先の京都大学より配置換えにより教授に着任し、1年前から教授に就いておられた長岡振吉氏と共に精密加工研究室の創設に当たりました。長岡さんは株式会社大隈鉄工所で技術担当常務取締役をしておられた工作機械の大先達で、同じ教授とはいえまだ42才だった私は傍らに弟子入りをさせてもらったつもりで、定年退官されるまでの3年間と一緒に仕事をさせて頂きました。

長岡教授の後任としてその後、岡根功教授（現名誉教授）を迎えて接合加工研究室が発足し、また精密加工研究室は平成4年（1992）助教授から昇任した堀内宰教授が全て引き継いで下され、フリーになった当職はそのあとの3年間をインドネシアの教育案件に専念いたしました。これは豊橋技術科学大学が主幹して行った政府開発援助（ODA）事業であるインドネシア高等教育開発計画に派遣されたものであります。平成6年（1995）に帰任後、名目上は接合加工研究室の担当に任じられましたが、実質上の担当は全て福本昌宏助教授にお任せし、当職は別にCAD/CAM研究のグループを発足させて、ここには海外からの留学生も多数迎えて研究活動を行い、定年前の今日に至っております。

23年間の技科大在勤中に、直接ご指導申し上げた卒業生の数は、修士課程修了109名、学部のみで卒業16名であります。また博士課程に在学されて、博士の学位を取得された方が9名（1名の予定者を含む）あります。その内、日本人は唯一人で、留学生の方

が多く中国4名、インドネシア3名（うち1名が予定者）イラン1名でありました。

着任当初の研究課題の一つは機械加工の振動解析で、2日間コースというのをしばしば開催して産業界の実務担当者に講習事業を行いました。これには一期生二期生の学生諸君が実験実習の指導員となって手伝ってくれました。この事業は昭和63年（1988）の第20回まで続き、合計300名の方が受講されました。その時の教材をもとに、1990年に「機械加工の振動解析」という本を工業調査会から出版しておりました。11年経ってこの度、この著書に2001年（第13回）精密工学会連沼記念賞が授与され、喜んでおります。

CAD/CAM研究グループは、1986年に静岡県産学共同研究事業に採択された時から開始した省段取り加工技術の研究を引き継いで行ってきました。この研究には地元の産学共同推進機構として発足された(株)サイエンスクリエイトと(財)東海技術振興財団の方々が多大なお力添えを下さいました。国の科学技術基本法の施行を受けて始まったNEDOの出資事業の一端である中小企業創造基盤技術研究事業（平成8～10年）に採択された事がきっかけで、研究成果の一部が中小企業工場において商業生産に実用されるようになり、今後は研究開発の継続とともに、ユーザー支援が大きな課題となって来ております。

明年4月に退任の後は個人事業者として技術コンサルタントを開業し、中小企業機械工場でお役に立つ所があれば、何処でもお手伝いさせて頂くよう準備中であります。営業品目は機械加工の振動解析と省段取りマシニングセンター加工技術の二つであります。

今働き盛りの時期を迎えられた卒業生の皆様には次のメッセージを送ります。ビジネスが拡大していた80年代までと異なり、皆様の時代は厳しい状況となりました。強い危機感を持って職務に臨まれる事が必要です。機械工業の生産力が我国の経済と生活の原動力であります。その生産力が衰退する時期に入りました。これから10年20年とこの衰退の時期は続くことでしょう。一つの要点はコストの低減です。加工組立産業といわれる機械工業では、おびただしい数の部品を造る加工工程の製造コストを下げるために、新しい技術をものにして使いこなす事が重要です。需要が減少して行く中でも、新しい技術を入れ、それに伴って製造設備も入れ替えて行く事ができなければコストは下がりにません。数パーセントの低減ではなく、数十パーセントの低減が目標であります。経営、技術、技能の三者が一つになって、強い危機感を持って当たられる事が大切であります。

皆様のご健康とご活躍を祈ります。

研究室だより

計測システム研究室の近況報告

生産計画学講座 講師 堀 畑 聡

従来、研究室名を「材料加工システム」研究室としておりましたが、研究内容の変遷に伴い平成4年より「計測システム」研究室と改めました。研究テーマは、非定常信号の時間一周波数解析と画像情報処理の研究を中心として、それらの基礎研究および応用研究を行なっています。時間一周波数解析の研究では新しい解析ツールの開発や音響、機械などの音響・振動信号の時間一周波数解析による設備診断などに加えて、新たに頭蓋内圧脈波や脳波といった生体信号の時間一周波数解析による状態診断への適用を試みています。アクティブノイズ制御に関しては、ダクトを用いた1次元制御と3次元モデル空間における騒音の低減に関する基礎研究を行なっています。また、画像処理分野の研究では、5自由度カメラを用いた鏡面形状の非接触計測、物体形状の認識に関する基礎研究を行なってきました。現在では、移動物体の追跡制御、人間が注視している視線方向の推定、視覚障害者を対象とした触覚を介したヒューマンインタフェースに関する基礎研究など、医療福祉に関連した研究にも着手しています。研究設備に関しては、現在ではワークステーション、DOS-Vなどのコンピュータ、高性能画像処理ボード、各研究に必要な計測装置などが配置されています。

研究室のレクリエーションは、新入生歓迎会、卒業生追い出しコンパ、夏のキャンプ、冬のスキー旅行などを行なっています。2系内での研究室対抗早朝スポーツ大会はこれまで野球のみでしたがサッカーも加わり、野球、サッカーそれぞれをリーグ戦形式で行なっています。我が研究室の2001年の成績は野球、サッカーとも決勝リーグ出場にあと一歩およびませんでした。研究室の結束を高める意味でも、朝の時間を有意義に使っております。

卒業生は電気、弱電、総合家電、製鉄、情報処理、機械、自動車関連など幅広い分野の会社へ就職しています。在校生も4月からは就職活動が活発になり、会社の選択に悩むこととなります。その時の卒業生からのアドバイスは大変ありがたいものです。ぜひ大学へ遊びに来て、就職に対しての心構えや就職試験についての情報などを伝授してください。宜しくお願いします。



精密工学研究室の近況報告

加工学講座 助手 澁谷 秀雄

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

現在、精密加工研究室では堀内幸教授、鈴木浩文助教授、澁谷秀雄助手の3教官、および修士課程2年生が6人、1年生が4人、学部4年生が6人の計19名で活動しています。

主な研究テーマは、半導体・光学素子といった硬脆材料の超精密切削・研削・研磨加工、噴射加工、レーザ加工など、ナノテクノロジーをキーワードとする超精密加工に関する研究を行っております。また、今年度新設された総合実験棟に新しい実験室を構え、益々充実した研究生活が送れるようになりました。さらに研究成果を国内の学会で発表するだけでなく、今年は修士課程の学生が国際会議で発表するなど、海外にまで活躍の場を広げています。

また、研究の合間に新勧コンパ、研究室旅行、さんまパーティー、忘年会、追い出しコンパを行うなど、常にコミュニケーションを大切に、研究室一体となって充実した日々を送っています。これも先輩方から受け継いできた精密加工研究室の良き伝統のおかげです。

研究室のホームページ (<http://premac.tutpse.tut.ac.jp>) に、このような近況などが掲載されていますので、是非一度ごらんください。

最後になりましたが、先輩方のますますのご活躍を祈るとともに、研究室への叱咤激励やご助言をお願いする次第であります。



研究室だより

材料保証学研究室の近況報告

材料工学講座 教務職員 森田 繁樹

卒業生・修了生の皆様、お元気でしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で大いにご活躍のことと存じます。

さて、材料保証学研究室の近況についてご報告いたします。現在の研究室の教職員スタッフは、小林俊郎教授、戸田裕之助教授、森田繁樹教務職員の3名です。戸田助教授は、平成13年10月から平成14年10月まで、イギリスのサザンプトン大学へ留学中です。学生は、ルーマニア、パキスタン、ミャンマーからの留学生を含め、現在18名（DC：3名、M2：3名、M1：6名、B4：6名）です。

熱疲労試験機、SEM内材料試験機、200tonプレス、高温用内耗・弾性率測定装置等が相次いで導入されました。以前から続けているCAIシステムには2台の新型機などがNEDOプロジェクトによって設置され、依然として研究の中心となっています。また、Hopkinson棒式高速衝撃試験機は、アルミニウム、チタン、複合材の70m/sまでの衝撃引張試験にフル稼働しています。その他、新聞発表も行った超高強度アルミニウム線材やインテリジェント複合材料、ADI、チクソ casting、アルミニウム中の介在物やSi等のin-situ強度の測定などの新しいテーマにも精力的に取り組んでいます。研究内容等の詳しい情報は、下記アドレスの材料保証学研究室ホームページでご覧下さい。

<http://alroom.tutpse.tut.ac.jp/efpm/>

先にご案内の通り、平成13年5月26日に研究室のOB会を開催いたしました（出席者31名）。今後も隔年で（次回予定：平成15年）研究室OBの方々との交流の場を企画していきたいと思っておりますので、多数のご参加をお待ちしております。（本研究室のOBは、本年度の卒業・修了生を含めて100名を越えました。）最後になりましたが、豊橋へ来られた際には、気軽に研究室へお立ち寄り下さい。



豊友会事務局から

第2回総会の中止について

平成13年10月7日に開催を予定していましたが第2回総会は、同窓生1016人に対し、参加希望者が8人と極少数であったため中止となりました。次回総会開催の折には、同窓生の皆様の御協力をよろしくお願い致します。

豊友会会報について

昨年度は、豊友会会報（for you）第2号を本学同窓会会報とは別に、平成13年1月に発行・発送しましたが、本会報の各系配分ページの増加に伴いまして豊友会会報を本会報内に掲載することになりましたのでご報告致します。

平成12年度収支報告

収入の部	
前年度繰越金	1,911,003
終身会費入金	590,000
普通預金利息	1,148
収入合計	2,502,151
支出の部	
豊友会会報印刷代	50,420
会報発送作業代	31,540
同窓会会報再発送代	152,728
名簿更新作業代	30,000
次年度繰越	2,237,463
支出合計	2,502,151

豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
 豊橋技術科学大学 生産システム工学系内
 FAX: 0532-44-6690
 E-mail: admin-2@tut-ob.org
 Home page: <http://www.tut-ob.org/>

会計担当 矢野 賢一
 総会担当 澁谷 秀雄
 会報担当 赤堀 俊和
 名簿担当 森田 繁樹

第三・第四工学系

電気・電子工学系／情報工学系より

電気・電子工学系および情報工学系出身の同窓生のみなさま、いかがお過ごしでしょうか？
まず、両系が大学を取り巻く厳しい現状に挑む様子を、榊原先生（電気・電子工学系系長）および中島先生（情報工学系系長）から報告していただきます。

JABEE への電気・電子工学課程の取り組み

電気・電子工学系系長
榊 原 建 樹



1. はじめに

日本の大学教育の水準は、国際的な水準を満たしているにもかかわらず、その教育の認定制度が無いために、卒業生が海外で仕事をしようとするときに、差別を受けている。また、最近では、大学卒業生の学力の低下が指摘されている。大学教育の質、卒業生の質を向上させ、技術の発展と技術者自身の社会的地位の向上を目指すことは、大学教育の大きな使命である。このような目的で、1999年11月に、日本技術者教育認定機構（JABEE: Japanese Accreditation Board for Engineering Education）が発足した。

JABEEは、統一基準に基づいて理工農学教育における教育プログラム（学習・教育目標を実現するためのカリキュラムと教育システム）の認定を行い、教育の質を高めることを通じて、わが国の技術者教育の国際的な同等性を確保することを目的に設置された。ここで、認定とは、当該課程が適切な学習・教育目標を設定し、公表し、その目標を達成した学生のみを卒業させているか、さらに、そのプログラムを継続的に改善しているか、また、それらの水準が認定・審査基準で要求する最低基準以上であるか否かを審査するものである。さらに、認定には有効期限があり、最長、5年である。

2. 認定および審査方法

当該課程が、その伝統や卒業生に期待する活躍分野を考慮して、独自に、学習・教育目標を設定し、公表し、そのような卒業生を送り出すために必要なカリキュラム、施設、教員を揃え、目標を達成した学生だけを卒業させていることを証拠を挙げて審査委員に説明して、認められれば認定を受けることができる。

審査は、認定を受けようとする課程から提出される自己点検書（約1,000ページ）および実地審査（3人の審査委員により3日間）により行なわれる。

3. 自己点検書

提出しなければならない自己点検書には以下の項目を含む必要がある。(1) 学習・教育目標、(2) 学習・教育の量、(3) 教育手段、(4) 教育環境、(5) 学習・教育目標の達成度の評価と証明、(6) 教育改善。その他、添付資料として(1) 学習・教育目標に関する本課程の目標とJABEEの目標との対応、(2) 総学習時間とその内訳、(3) 目標を達成するために開講されている授業科目の時間数、(4) 教員個人データ、(5) 教員一覧表、(6) 教員の活動状況、など。

4. 電気・電子工学課程の取り組み状況

今年度、電気電子情報関係分野で審査を受ける大学は、岡山大、秋田県立大、豊橋技大、徳島大、東海大、の5校である。上記の自己点検書のほかに、証拠として、試験問題とその答案用紙、演習問題とその回答、実験のレポート、卒業論文、成績表などを示さなければならず、3系では、目下、その準備に全系を挙げて取り組んでいる。

大学構造改革に対する情報工学系の取り組み

情報工学系系長

中 島 浩



「聖域なき構造改革」の旗印のもとに、日本の様々な分野でシステムの大きな変革が行われようとしています。大学ももちろんその例外ではなく、独立法人化や大学間連携・統合といった「ハードウェア」の改革や、教育・研究に対する評価の強化とそれに基づく重点投資（いわゆるトップ30）といった「ソフトウェア」の改革が、急ピッチで行われつつあります。これらの改革への対応は全学的なテーマであるとともに、情報工学系に固有のテーマとして取り組んでいるものもいくつかあり、ここではそれらについて紹介します。

まず「ハードウェア」改革として、ITに関する教育・研究を行う大学院研究科の新設構想を進めています。昨今の「ITバブル崩壊」のあおりで「IT革命」の熱気が若干冷めた感がありますが、これはむしろ一過性の現象で、ITが今世紀の科学技術の中核的な存在であるという事実は何ら変わりはありません。実際、政府レベルでも「e-Japan重点計画」に基づき、緊縮財政の中でIT分野への重点投資を押し進めています。この「重点計画」には大学に密接に関連する重要施策・課題として「教育・学習・人材育成」と「基礎的研究開発」が掲げられており、大学のIT教育研究部門の強化や研究開発能力の向上が求められています。

このような国家的要請や、本学の重要責務である高専でのIT教育研究との連携強化への対応は、課程・専攻のレベルを超えたものであり、より高

いレベルの組織を必要としています。つまり現在は情報工学系、知識情報工学系、電気・電子工学系や、関連のセンターに分散しているIT教育研究パワーを、大学院研究科という形で結集しようという構想です。また基盤ソフトウェア、メディアとコミュニケーション、生命情報、先端デバイスといった重要な技術分野に的を絞り、高度で先端的教育研究を行う体制に再編することも狙いの一つです。さらに構想を推進する駆動力として、本学のIT教育研究レベルの高さをアピールするために、「情報・電気・電子」分野での「トップ30」に本学の名を連ねるべく、前述の関連系・センターと協力して取り組んでいくこととしています。

「ソフトウェア」改革の面では、教育カリキュラムの再編に取り組んでいます。まず第1段階として、学部1・2年次での早期専門教育の強化を取り上げ、「電気情報数学基礎」、「プログラム基礎I」、「同II」の3科目を新設しました。これらの科目により、従来は1年次入学生と3年次入学生の間で見られた「専門技術・知識のギャップ」が解消されるものと考えています。また現在は第2段階の学部3・4年次カリキュラムの改革に取り組んでおり、学問・技術の進歩に対応した科目新設とともに、より体系的に情報工学を学べる教育システムとすることとしています。今後さらにJABEEへの対応や、大学院を含めたカリキュラムや教育システムの改革にも取り組み、「IT人材育成」に「ソフトウェア」の面からも応える努力を続けます。

以上のように情報工学系では日々改革の努力を積み重ねており、国家的な変革の嵐の中で単に「生き残る」だけでなく、嵐を追い風としてステップ・アップを図ろうとしています。卒業生の皆様も嵐の中で奮闘されていると思いますが、母校も奮闘していますので応援・激励をよろしくお願いします。

電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

電気・電子工学系

穂積直裕

修了生、卒業生のみなさん、各職場でますますご活躍のことと思います。景気の神様は未だ長期休暇から戻られないようですが、技科大で身につけた実力をベースに明るさと千載一遇の運をつかむ執念で乗り切りたいものです。厳しい時代ですが、やる気さえあれば活躍の場は随所に用意されているようにも思えます。

さて、電気・電子工学系では平成13年3月に次の3名の先生方が技科大を去られました。基礎電気電子大講座教授であった英貢先生は定年退官され、静岡県浜松工業技術センター招へい型職員としてご活躍になっておられます。電子デバイス大講座助教授であった今枝健一先生は中部大学工学部応用化学科教授として移籍され、技術開発センター助手であった宮野竜一先生はスズキ自動車へ就職されました。

井上光輝先生は昇任され工学部教授になられました。若原昭浩先生は技術開発センター助教授から工学部助教授になられました。張平祥先生は任用更新され、平成13年12月まで技科大に在籍されます。事務室では、深井悦子さんが研究協力課研究事業係へ移られ、村田裕美さんは退職、大宮明代さんは産休中です。新しく吉田健一さんが留学生係から系事務へ見え、木下紗会子さんと水野真治さんが採用されました。

大学をとりまく環境も決して甘いものではありませんが、社会に出た皆さんの活躍こそが大学の評価を高める原動力です。また、本学が優秀な後輩を社会に送り込むことが、先輩諸氏の評価を高めることとなります。いい循環をもたらすようにお互いがんばりましょう。

情報工学系

中内茂樹

卒業生、修了生の皆様、お元気でしょうか？長引く不況に加え、米国への同時テロ事件など、良い話はあまり聞きませんが、こういう時代こそ科学技術の発展と人材の育成を使命とする我が大学の役割はますます大きくなるものと、教官一人一人、気を引き締めております。

さて、情報工学系ではこの1年間に3名の先生方が転出されました。平成13年3月にRakkappan助手が愛知電子(株)へ転出され、6月には伊藤大雄講師が京都大学に助教授として、8月には片山正純講師が福井大学に助教授としてそれぞれ赴任されました。皆さん、転出先でそれぞれご活躍されています。

一方、新たに5名の新任の先生方をお迎えいたしました。平成13年4月に東京工業大学より和田和千先生を情報システム大講座講師として、(株)デンソー基礎研究所より北岡教英先生を計算機大講座助手として、本学博士課程より野口健太郎先生、高橋港一先生を情報システム大講座助手として、8月には福田浩士先生を情報処理大講座助手としてお迎えしました。また、情報システム大講座の後藤信夫助教授が8月から1年間の予定でマレーシアのマルチメディア大学に滞在されておられます。7月には情報処理大講座の中内茂樹講師が助教授に、8月には福村直博助手が講師に昇任されました。

これからの激動の時代を迎えるにあたり、教育・研究にこれまで以上に力を注いでいきたいと思っております。

電気・電子工学系／情報工学系教職員一覧

◆電気・電子工学系

[電気・電子基礎大講座]

教授：太田昭男，井上光輝
 助教授：服部和雄，張平祥
 講師：内田裕久

[電気システム大講座]

教授：恩田和夫，榊原建樹，長尾雅行
 助教授：穂積直裕，乾義尚，滝川浩史
 助手：伊藤衡平，村本裕二，見目喜重
 技官：日比美彦

[電子デバイス大講座]

教授：吉田明，米津宏雄，石田誠
 助教授：朴康司，若原昭浩，澤田和明
 助手：岡田浩，高尾英邦，古川雄三
 技官：足木光昭

◆情報工学系

[計算機大講座]

教授：中川聖一，中島浩，永持仁
 助教授：梅村恭司
 講師：高田広章，宇津呂武仁
 助手：大野和彦，石井利昌，北岡教英
 技官：片岡嘉孝

[情報処理大講座]

教授：臼井支朗，金子豊久，宇野洋二
 助教授：栗山繁，中内茂樹
 講師：福村直博
 助手：早坂太一，青木公也，福田浩士

[情報システム大講座]

教授：宮崎保光，田所嘉昭，横山光雄
 助教授：後藤信男
 講師：和田和千
 助手：上原秀幸，高橋港一，野口健太郎
 技官：宮脇治雄

◆事務官

吉田健一，水野真治，木下紗会子

◆同窓会役員

[電気・電子工学系]

村本裕二，見目喜重
 (admin-3@tut-ob.org)

[情報工学系]

早坂太一，高橋港一，野口健太郎，福田浩士
 (admin-4@tut-ob.org)

平成12年度

電気・電子工学系／情報工学系同窓会会計報告

	平成12年度決算
■収入の部	
平成11年度繰越金	3,788,245
平成11年度終身会費入金	1,110,000
預金利息	2,387
収入合計	4,900,632
■支出の部	
名簿管理学生アルバイト	40,000
(平成11年度3・4系分)	(20,000)
(平成12年度3系分)	(10,000)
(平成12年度4系分)	(10,000)
平成11年度会報発送費	253,634
(3系分)	(140,502)
(4系分)	(113,132)
平成11年度会報発送作業	38,662
小計	332,296
次年度繰越金	4,568,336
支出合計	4,900,632

～退官教官より～



電子・電気工学系 教授

英 貢

技科大におけるわが師

人間はいくら年をとっても学び続ける必要があるようだ。技科大に赴任してからも多くのことを学ぶ必要があった。学ぶには「師」が必要である。そこで特にお世話になった方を3名を選んでみた。

榊米一郎先生

私はもともと初代学長とは面識は無かった。面識のない私が採用されたのは、米国フォードで10年間研究者として生存競争をしのいできた経験が買われたからであった。「外国に留学した日本人はたくさんいる。しかし、普通せいぜい3年間位客として滞在するだけで、外国で給料をもらって外国人と競争してきた日本人は少ない。そうした人が本学に必要」であったのである。外国に長く暮らした日本人を一種の異邦人として扱う日本人が多い中で、榊先生のような考え方はユニークで学べきものがあつた。

榊先生は技科大を個性的な大学にするよう配慮され、人事の面だけでなく、国際交流の重視、大胆な実務訓練制度の導入、面接を主体とした入学者選抜などなど、当時としては斬新なアイデアを出され強力に実行された。当時は無我夢中でその

実現のお手伝いをするのに忙しく、先生の発想の仕方がいかに素晴らしいかを本当に理解できていなかった気がする。それができたのは、退官数年前大学の改革が時代の要請となり、私も大学のあべき姿に興味が起こってからであった。

斎藤武先生

斎藤先生とは、国際交流委員会の委員長・副委員長の関係があつた。先生からは国際交流について指導して頂いただけでなく、もっと大事なことを教わつた。実は私は本学に就任するまで大学での経験は大阪大学での助手としての3年だけであり、大学の運営について疎かつた。そんな私に「大学とは何か」を懇切に教授して下さつたのである。教わつた中には、教官と事務官の関係についての説明もあつた。なぜこのように懇切に手ほどきして下さつたか今でも謎であるが、おかげで経験の乏しさをさほど苦にすることなく、その後の学内の仕事をこなすことができた。

その斎藤先生もお亡くなりになった。心よりご冥府をお祈りいたします。

高石鉄男先生

15年にわたる海外生活のせいもあつて、帰国して本学に来たとき日本の学界、官界、産業界との結び付きはゼロであつた。技科大に就任してから「光プロセス」を研究テーマに選んだが、それが時代の要求と合い、私の仕事が評価されるに連れて、産官学との交流が始まつた。しかし、もともと何も付き合いがなかつたので、勝手がわからず途方にくれることが多かつた。そういうときに相談に乗り、明快の指針を示して下さつたのが高石先生である。例えば、あるとき霞ヶ関のある省庁から、「航空・電子等技術審議会」の専門委員に就任を依頼してきた。でもなぜ航空関係の審議会かと理解できず困つた。そこで高石先生にお尋ねして、これは要するに名前だけの問題だから安心して引き受けてよいという助言を受けた。事実、その委員会に出席してみると、私が専門とする光技術について審議する場であり、飛行機とは何も関係なかつた。このようにして、外部から依頼された数多くの仕事を自信もつてこなし、社会貢献を十分に果たすことができた。

研究室だより

磁性研究室

電気・電子工学専攻修士2年

熊谷正章



卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場の最前線で大いにご活躍のことと思います。

現在の磁性研究室は井上光輝教授のもと、客員教授にロシアのPerov教授を迎え、秘書2名、博士2名、修士5名、学部5名のメンバーで構成されています。

研究テーマは、1) MPC (MagnetoPhotonic Crystals) グループ、2) SLM (Spatial Light Modulators) グループ、3) NMS (Nanoscale-Magnetic Structures) グループに大別され、それぞれのグループが昼夜を問わず精力的に研究を行っています。さらに研究成果の報

告とプレゼン能力向上のため週1回ゼミを開き、先生はもちろん学生同士でも毎回熱いディスカッションが繰り返されています。それとは別に週1回グループごとのミーティング、不定期でお茶会と称する個人ミーティングが行われています。

研究室でのイベントも春の遠足に始まりビアパーティ、研究室旅行等盛んに行われています。みな日頃の疲れを癒すため、この時ばかりは研究を忘れ楽しんでます。特に今年度は基礎大講座合同バーベキュー&パターゴルフ大会が実現し、豪華賞品は惜しくも獲得できませんでしたが他研究室との交流が深められたことに大きな収穫がありました。

研究室のホームページ(<http://www.maglab.eee.tut.ac.jp>)では研究内容、メンバー紹介、イベント写真などを公開しており、研究室の【今】を感じることができるとと思います。是非一度ご覧いただけたら幸いです。また豊橋近辺へ来られたときにはぜひ研究室へもお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。

集積回路・センサシステム研究室

電子・情報工学専攻博士1年

河野剛士



卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

現在の研究室は、石田誠教授を中心として、澤田和明助教授、高尾英邦助手、足木光昭技官のスタッフと、博士学生6名、修士2年生7名、修士1年生9名、学部4年生8名、研究生1名、企業共同研究員3名の総勢38名で構成されています。近年まれに見るメンバーの多さであり、研究室旅行、研究室コンパが非常に楽しいものであります。しかし、毎週月曜日にICGミーティングを行いますが、これまで使用していた部屋では狭くなってきました。

研究室は「結晶成長」,「センサ」,「回路・MEMS」の3つのグループからなっています。研究結果は、週1回のグループミーティングの場で、報告者を中心に議論を交わします。グループ内でも各個人がテーマを持ち、研究に取り組んでいます。実験の指導には、博士学生と修士2年生が活躍します。ときには、他の研究室の学生と議論を交え、研究を進めていきます。研究テーマの詳細は <http://icg.dev.eee.tut.ac.jp> に記載しておりますので是非ご覧下さい。

実験は主に固体機能デバイス研究センター、C3クリーンルーム、C1クリーンルームにておこなっています。最近では、ステッパ装置、アルミナCVD装置を新たに導入いたしました。居室は、助

手研究室横の第1修研室と第3修研室を使用しています。先生方の部屋に近いこともあり、学生は皆、規則正しい研究生生活を心掛けております。

研究成果の一例としまして、平成13年度の応用物理学会において、春季、秋季にそれぞれ10件近くの研究発表をおこなっています。また、国際会議への発表件数も増加しています。これからも世界をリードする優れた研究成果をこの研究室から発信していきたいと感じております。

機会があれば、是非研究室を訪問して下さい。学会等でも声を掛けて頂くと大変嬉しく思います。皆様の卒業、修了後の体験や、在学中の貴重なお話しをして頂ければ幸いです。

並列処理研究室

情報工学専攻修士1年

外崎 由里子



卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍しておられることと存じます。

現在の並列処理研究室は、中島浩教授、大野和彦助手の2名のスタッフと、修士2年3人、修士1年2人、学部4人、研究生1人の総勢12名で構成されています。

さて、研究室の近況をご報告致します。一昨年度、中島教授を研究総括代表者として『分散並列処理によるドーム投映技術の研究開発』プロジェクトがス

タートしました。この研究は、プラネタリウムなど大規模なドーム空間への大画面実写映像の投映や、高速な映像合成などを実現するために、PCクラスターと汎用プロジェクタを用いて、安価で高性能な投映システムを構築しようというものです。この研究の一部は、産学連携研究開発プロジェクトとして、豊橋技科大をはじめ、6つの研究機関と共同で行なわれました。

また、研究室では、『並列マシンアーキテクチャ』、『並列プログラミング言語処理系』、『並列配線システム：Amaterous』、『随時参加型広域計算システム：WDC』、『分散並列計算によるドーム投映』の5つの研究テーマに分かれ、活気ある研究を日夜行なっています。毎週木曜日に開かれる研究会では研究の状況報告を行ない、中島教授に熱い指導をいただいています。

詳しい研究室の近況は、ホームページにて公開しておりますので、お時間があればぜひ一度ご覧下さい。また、豊橋方面へ来られたときには、どうぞお気軽にお立ちよりください。研究室一同、心から歓迎させていただきます。

情報伝送研究室

情報工学系助手

高橋 港 一



修了生・卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれの職場でご活躍されていることと存じます。

本学が新設されると同時に、本研究室は1979年より、宮崎保光教授によって非常勤として、講座開設準備が進められ、1981年に開設されました。そして宮崎教授のご指導のもと、多くの人材を産業界、教育界に輩出してきました。これまで、研究室から外部に教授3名、助教授、講師2名、助手2名が育っています。

現在の本研究室の構成は、宮崎保光教授を中心に、後藤信夫助教授、宮脇治雄技官、増田忠弘マルチメディアセンター助手、佐々木秀記教務職員、園田潤技術開発センター助手、私の7名のスタッフと、博士4名、修士6名、学部6名、研究生1名の計17名の学生で、総勢24名であります。最近における人事異動として、インドから来られていたRakkappan Balasubramanian助手が本年4月より愛知電子株式会社に移られました。また、宮崎教授が国際協力事業団のマレーシ亚马ルチメディアプロジェクトを推進しており、後藤信夫助教授が本年8月より1年間、マレーシアに海外出張されています。

さて、情報伝送研究室では、(1) コンピュータ数理解析・計算電磁界解析、(2) 量子コンピュータ・

光通信、(3) 電磁波工学・環境電磁工学、(4) X線ファイバ・機能素子、(5) 生体電磁工学・光バイオテクノロジーについて理論的・実験的に研究を行っています。学生は電磁波グループ、光・量子グループ、X線グループ、MEグループに分かれ、それぞれのグループ内でのディスカッションや月2回の報告会を行いながら研究を着実に進めています。このように本研究室では多彩なテーマについて研究を行っていますが、とくにX線ファイバや光・量子コンピュータはまだ未知の領域であり、長期的視野でじっくりと研究に取り組んでいます。

また本年は、本学のMUPSプロジェクト事業として、情報通信のための電磁波工学マルチメディア・コンテンツの制作に取り組みます。これは、電磁波の基本的な放射・伝搬・導波・散乱現象をコンピュータ解析して得た結果をもとに動画像を作成し、デジタルコンテンツとして再生することにより、電磁波工学や通信工学の授業で使えるような教材の制作が目的です。

今年の2月には、宮崎教授が還暦を迎えられましたが、これを記念して技術研究懇談会が3月3日に名古屋で盛大に執り行われました。懇談会では、これまでに本研究室を卒業された100人近くの先輩方とも親睦を深めることができ、皆楽しいひとときを過ごすことができました。

4月には、5名の学部4年生が研究室のメンバーに加わり、新入生歓迎ハイキングを長久手町にある愛知青少年公園で行いました(写真)。

夏には、毎年恒例の研究室旅行がありますが、今年は長野にあるセイコーエプソンと三協精機を見学しました。

諸先輩方のご来校を、研究室一同、心よりお待ちしております。お気軽に研究室へお立ち下さい。

編集後記

本年度より、各系ごとに責任編集を行うページができたことにより、電気・電子工学系および情報工学系では、他系と異なり、合同編集という形式で皆様のお手元に情報をお届けすることになりました。ほとんどの同窓生の皆様は、両方の系の様子が気になることと思いますので、これからも年1回の会報およびWeb上にて、出来得る限り情報発信を行っていきたくと思っています。皆様におかれましても、電子メール等にて、こちらにどしどし様子をお伝え願えれば幸いです。

第五工学系

物質工学系より

学内近況報告

第五工学系 系長 神野清勝

物質工学系卒業生の皆さん、お元気にご活躍のことと思います。私も豊橋に来て23年、いつのまにか年寄りの仲間にはいつてしまいました。この会報に言葉をと依頼された機会にふりかえってみますと、開学当初の英語の輪講、研究室の立ち上げ、実験棟の建設などが遠い思い出としてよみがえってまいりました。多くの卒業生の方々も、この会報を手にとられると、当時の厳しかった先生方のことを思いだされることでしょう。現在は私も含めて、どの先生もとてもやさしくなり、学生さんの多くは、先生の厳しさをあまり知らずに卒業してゆくようになりました。時代の変化をまざまざと見る思いです。しかしながら、化学を職業としてゆく皆さんに要求され期待されていることは、20年以上経った現在でも、またどんなに時代が変わってゆくとも当時と全く同じなのではないでしょうか。英語を右手、コンピュータを左手、そして頭と体で化学するということです。皆さんが日々実践されていることを、大学では化学を志す基本として学生に教え続けてきているわけです。卒業後、一度も顔をみせていない諸氏はぜひ、多くの建物が増えた大学そしてまた昔のままのなつかしい物質工学系の卒業研究室を訪問

ください。先輩の言葉や姿が在学生にとっては大いなる励みになりますし、先生方にとってもこれ以上ない喜びであると思います。

[工業無機化学大講座]

- 応用物理化学研究室： 亀頭直樹 教授
大串達夫 助教授、佐藤裕久 助手
無機材料工学研究室： 逆井基次 教授、前田康久 講師、
武藤浩行 助手
無機物性工学研究室： 角田範義 助教授、水嶋生智 講師、
大北博宣 教務職員

[工業分析化学大講座]

- 分離定量分析化学研究室： 神野清勝 教授(系長)、
平田幸夫 助教授、齊戸美弘 助手
生化学研究室： 青木克之 教授、吉田祥子 講師

[工業有機化学大講座]

- 有機材料工学研究室： 伊藤浩一 教授、伊津野真一 助教授、
曹 継壯 助手
応用有機化学研究室： 西山久雄 教授(系長補佐)、
岩佐精二 助教授、本山幸弘 助手
複合材料工学研究室： 竹市 力 助教授、西宮伸幸 助教授、
松本明彦 助手

[分析計測センター]

- 状態分析化学研究室： 加藤正直 助教授、服部敬明 助手

[技 官] 太田初一、齋藤年秀

[事務官] 鈴木いずみ

研究室だより

生化学研究室

機能材料工学専攻 2年 菊池孝紀

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれおおいにご活躍のことと存じます。現在9月、研究室では夏休みも終了し、学部4年生は卒研発表に向け実験の追い込み中、といった所です。

現在の生化学研究室は、青木克之教授、吉田祥子講師、博士2名、修士6名、学部生9名、そしてこの8月に研究生の張世軍さん、9月に外国人研究者のXingさんを迎えて、総勢21名となっております。



現在の研究テーマを紹介しますと

(1) 青木グループ

生体物質の非常に高い特異性（抗原と抗体の関係など）は、高度に立体特異的な分子認識機構に基づく。原子レベル（三次元構造）での分子認識機構の解明とその応用を目指し、次のような研究を行っています。

1) 各種ゲスト分子とレゾルシノール環状四量体との超分子複合体のX線結晶構造解析, 2) 核酸の塩基を特異的に認識する金属錯体試薬の開発, 3) ビタミンB₁, B₆関連の各種金属錯体のX線結晶構造解析

(2) 吉田グループ

脳神経系を様々な細胞と伝達物質の組み合わせと考え、物質の働きから脳の構造形成と機能獲得機構を研究しています。心筋細胞を細胞間情報伝達モデルとし、小脳分化過程での神経細胞種に注目した次のような研究を行っています。

1) プルキンエ細胞の細胞死メカニズムと小脳神経回路網形成の解明, 2) 顆粒細胞の分化機構, およびグリアー顆粒細胞間相互作用による神経分化, 3) 培養心筋細胞による細胞内・外の物質的動態

さて、研究室には、最近大きな変化がありました。今年8月に、助手の似内靖先生が理化学研究所播磨研究所に移られました。似内先生には4年半の間、研究室ゼミ等で示唆に富むご指摘や指針となるご助言等を数多くいただき、大変お世話になりました。研究室一同、似内先生の今後のご活躍を期待しております。

研究室の近況や研究内容の詳細はHPに公開しておりますので、是非一度ご覧ください。最後になりましたが、諸先輩方の今後のご活躍を研究室一同、心からお祈りいたしております。

<http://rodent.mups.tut.ac.jp/>

応用有機化学研究室

物質工学専攻1年 下園 かよこ

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍なさっていることと存じます。

さて、現在応用有機化学研究室は、教官3名（西山久雄教授、岩佐精二助教授、本山幸弘助手）、そして学生19名（修士課程14名、学部生5名）で構成されています。また本研究室には、毎年海外からの研究生がいらっしゃいます。近年では、ドイツからベルントさんや、インドからセカールさんがいらっしゃいました。今年度は10月にバングラディッシュからアーマッドさんがこられます。



ここで研究室の近況を報告致します。

当研究室の近年のテーマを簡潔にまとめると、①有機金属、遷移金属錯体を用いる新規反応の開発、②光学活性有機の合成化学、③均一系分子触媒化学、不斉触媒、不斉合成、④生理活性物質の合成などがあげられます。詳しくはホームページをご覧ください（<http://alice4.avian.tutms.tut.ac.jp/>）。

また昨年度、新しく高分解能NMRが2台導入され、それに続いて元素分析装置、さらにHPLCが2台追加されました。このように装置がとても充実した中で朝は、9時から夜は深夜まで、4年生は卒業研究に、修士2年は修士論文にむけて、また修士1年は新たな研究の発展に向けてそれぞれ頑張っています。

研究室の雰囲気は今まで同様に、先生方と学生との対話が常に持たれており、学生は其中で自由に議論し、取り組んでいます。また学生同士においては、研究室全体あるいは部屋別の報告会などを通して、お互いの研究について理解し、助言し合う様子もみうけられます。

近年恒例行事となりつつある研究室旅行へ今年も行ってきました。今年は、下呂・高山方面で温泉につかりながらのんびりとした時間を過ごすはずでしたが、超大型台風の接近もあり、2日目には早々と切り上げる羽目に…。なにはともあれ、皆それぞれ楽しんでみたいと思います。今後の行事予定としては、11月頃に名古屋大学とのソフトボール大会も予定されています。

最後になりましたが、諸先輩方の今後のご活躍を研究室一同お祈りしております。また豊橋へお寄りの際は、助言などを頂けたら嬉しく思います。

無機物性工学研究室

物質工学専攻2年 松永 健嗣

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でおおいにご活躍しておられることと

存じます。

現在の無機物性工学研究室は、角田範義助教授、水嶋生智講師、大北博宣教務職員の3名のスタッフと修士2年5名、修士1年4名、学部10名の総勢22名で構成されています。最近では当研究室に他大学から入学希望の方が増え、今年も2名新たに修士課程より加わりました。



さて、研究室の近況を報告致しますと以下のように大別されます。

(1) NO_x除去研究グループ

この研究グループでは現在、セリウム酸化物や鉄系酸化物を触媒として用いたトンネルなどで存在する低濃度NO_xの除去に関する研究を行っています。

(2) 水分解研究グループ

この研究グループでは現在、セリウム酸化物やチタン酸化物を光触媒として用い、水分解を行うという研究を行っています。すなわち、水分解で得られた水素を石油・石炭などの枯渇資源からの代替エネルギーとする21世紀に必要な研究を行っています。

(3) 石油化学工業用触媒研究グループ

この研究グループは現在、炭化水素から高付加価値成分への転換反応用触媒の開発や廃棄プラスチックのケミカルリサイクル用触媒の研究を行っています。

(4) 多孔質膜・プラズマ研究グループ

この研究グループは現在、放電プラズマを用いたアンモニアの合成や塩化水素の分解を試みています。またプラズマに触媒を併用させるため多孔質膜を開発して反応効率を上げる研究を行っています。徐々にですが、前進しています。詳細は、wwwホームページ (<http://www.tutms.tut.ac.jp/mscat/index/index.html>) をご覧いただければ幸いです。

研究室には、朝は9時前ぐらいから夜は深夜まで学生が入り出しています。特に今の時期(ただ今8月末)は秋に向けての学会準備のために日々頑張っているところです。

研究室行事も盛んに行っており、四季折々・節目節目に行われる宴会はもちろんのこと、そーめん大会や

鍋大会なども行っています。

角田研究室では、このたび静岡大学の上野研究室(こちらの研究室には現角田研究室の先代教授であられた上野晃史先生がいらっしゃいます)とソフトボールの交流試合を行うことになりました。昔はこんなこともあったみたいですが、最近では交流がなかったそうです。ですから、これをきっかけに、上野研究室とは定期的に交流したいと考えています。

私個人の意見ですが、角田研究室は学科内・大学内でかなりホットな研究室だと考えています。学業面では学生みんなが協力し合って研究を成し遂げ、遊びもとことん遊ぶといったところです。

詳しい研究室の近況はHPをご覧ください。また、豊橋方面へ来られたときには、どうぞお気軽にお立寄り下さい。研究室一同、心から歓迎させていただきます。

同窓生より 「Sydney 大学留学記」

5系 稲垣・逆井研究室 第八期生 岩下 哲雄

(留学について)

科学技術庁から募集がある日豪科学技術研究員交流派遣制度に合格し、1999年11月1日より一年間、オーストラリア シドニー大学歯学部へ留学いたしました。ホストは、M.V. Swain教授、紹介していただいたのは、出身研究室の逆井基次教授です。Swain教授は、元々Commonwealth Science and Industrial Research Organization (CSRIO) の研究者でメルボルン時代は、ジルコニア系セラミックスの調製とその破壊力学、シドニーのNational Measurement Laboratoryでは微小硬度計(Nano-indentation)の設計および開発を、そしてSydney大学では歯科をはじめとする生体材料やそれらの材料の接着を破壊力学の観点から評価することを主に研究されています。牛の歯の靱性試験、人間の歯の微小硬度測定などを見る機会を得ました。とても、研究の守備範囲の広い先生です。



Swain先生と奥様(Helenさん)と記念撮影
(Swain先生のお宅にて)

一方、私のSydney大学での研究テーマは、炭素材料、特にガラス状炭素の変形挙動をSwain教授が開発されたNano-indentationマシンで評価することでした。この研究に対して稲垣・逆井研究室で同期だった太田直人君（東洋炭素㈱に勤務）からガラス状炭素試料の提供を受けられたことは、たいへんありがたかったです。

〈シドニーでの生活〉

私がシドニーへ留学する直前まで、工業技術院（現：産業技術総合研究所）の友人である高橋淳さん（現：東京大学工学部助教授）がSydney大学工学部複合材料の権威Mai教授のところへ留学されておられ、しかも彼と家族構成がまったく同じだったので、何のためらいも無く彼が借りていたアパート・車そして、乳児のためのグッズを引き継ぐことができたのは幸運でした。

アパートは築8年、8階建ての分譲マンションの4階、100m²ありました。地下にセキュリティキー付の駐車場、共同のプール付です。交通の便は、最寄の駅まで徒歩15分、Sydneyの中心部Cityと呼ばれる場所まで電車（Cityrail）で20分、Sydney大学まではおよそ40分という距離です。私は、毎日ハーバーブリッジを渡り、オペラハウスを眺めて自宅と大学を往復しました。アパートはこれだけの好物件ですから、家賃は日本円でおよそ10万円/月しました。オリンピックという行事があったためか、少々バブル気味で、不動産は毎年10%程度値上がりしているようです。

食料品は日本に比べて各段に安いです。牛肉は安いのですが、硬くてまずい。鶏肉が比較的高価で日本と同じくらいの値段ですが、味は保証できます。

味噌・しょうゆ・梅干などの日本食は、日本人街があり手に入りますが、中国人・韓国人街へ行く方が安く、しかも品数も多いので、少々遠くても車・電車はこちらへ行く場合が多かったです。

アパートから歩いてすぐのところのCrows Nest（カラスの巣）という街の商店街には日本食レストランが11件もあり、重宝しました。特に、魚料理はたいへん美味しく日本では何万円もしそうな食材（ウニ、エビなど）を安く食べることができました。すべての日本食レストランが日本人の経営という訳ではありません。韓国人らしき夫婦が経営していた寿司バーのいなり寿司には、なんと“わさび”がたっぷりはいっていました。

長男は地元の幼稚園（pre-school）へ通わせました。オーストラリアの新学期は夏休みが終了する2月からスタートです。キリスト教会に隣接したこじんまりとした幼稚園で一学年の定員25名、スタッフ（いわゆる幼稚園の先生）が4人で子供達の面倒をみます。実

にゆったりとしたものです。長男の英語を覚える速さには驚かされました。耳から覚えてくるので「R」と「L」の発音の区別ができていたのは、英会話教師の嫁さんも驚いていました。ただし、「A」の発音が完全にAussie訛で赤ちゃんのことを「バイビー」と発音していました。

〈南半球のラグビー〉

シドニーへ到着してすぐに、Rugby World Cup 1999の決勝戦があり、Australia National teamのWallabiesが2度目の優勝で幕をとじました。Wallabiesが帰国してから優勝パレードがあったり、本当に良い時期に留学できたものだと思います。

オーストラリアのラグビーは、日本でおなじみの15人制のユニオン・ラグビーより、ずっと前からプロ化されていた13人制のリーグ・ラグビーの方が盛んです。NRLというオーストラリア人曰く、「世界最強のリーグ」の試合はすごい迫力です。3月から9月まではほぼ毎週ゲームがあります。

一方、ユニオン・ラグビーは、南半球3カ国（オーストラリア、ニュー・ジーランド、南アフリカ共和国）のクラブチーム選手権「SUPER 12」が2月から7月まで行われ、それが終わった7・8月には、南半球3カ国のNational teamの対抗戦Try Nationsがあり、ラグビーファンをくぎ付けにさせます。

本当にこの国はラグビーが好きなのでしょう。芝生の公園やビーチで、男の子達はラグビーボールを持って遊ぶ姿を目にします。南半球の国においてラグビーが強いのも納得できますよ。

私もシドニー在住の日本人リーグ・ラグビーチームの練習に参加して、南半球のラグビー文化に少しは触れられたようです。



Sydney Olympic Parkにて（着ているのはラグビー・ユニオン Australia National teamのWallabiesのジャージ）

〈オリンピック&その他〉

さて、昨年のSydneyと言えばオリンピック。ほとんどの前売りチケットは抽選ということもあり、しどろもどろの英会話で電話予約したところ、野球、陸上、

ビーチバレーを観戦することができました。

とにかく陽気なオーストラリア人。オリンピックはもうお祭り騒ぎ。オリンピック開催中は学校も休み。競技場だけでなく街中“Aussie, Aussie, Aussie!”“Oi, Oi, Oi”のとにかく大騒ぎの二週間でした。

また、マラソンのスタート地点がアパートから歩いて10分程度だったので、あの高橋尚子選手がサングラスをかけてスタートした歴史的瞬間を見ることが出来ました。

学生時代メルボルンへ出張された逆井先生からオーストラリアについて教わったことは、「オーストラリアでは、プール・ビーチだけでなく、街中でも『メロンパトロール』できた」ということでした。私は、この『メロンパトロール』を実際に体験できました。

なお、メロンパトロールについての詳細は、逆井先生にお尋ねください。

〈この場を借りて、近況を〉

私の指導教官であった稲垣道夫先生は、平成11年3月北海道大学を定年退官され、同年4月からは尾張旭市の自宅へ戻られ、愛知工業大学応用化学科教授として活躍されておられます。

私は、稲垣先生、そして、同じ研究室の4年上の豊田昌宏先輩（福井高専助教授）らとNEDO提案公募事業での共同研究を平成10年度から平成12年度まで3年間実施しておりました。

私の所属していた旧通商産業省工業技術院は、平成13年度4月より、経済産業省傘下の独立行政法人産業技術総合研究所となり、私の勤務先は、旧大阪工業技術研究所（現：産業技術総合研究所関西センター）から産業技術総合研究所つくばセンター西（旧資源環境技術総合研究所）へ異動となりました。

「職場から皆さんへ」

5系6期 川口正剛

教職員、同窓、在校生の皆様、いかがお過ごしのことでしょうか。お元気ですか。私は5系6期卒業生の川口と申します。私は現在、山形大学工学部の機能高分子工学科に勤務しています。とはいっても、今年の3月まで技科大で助手としてお世話になっておりましたので、ここに近況報告することについては、何となく複雑な（懐かしいさや気恥ずかしさ）思いをしているところです。まずは、学生、教職員あわせて18年間のながきにわたり、お世話になりました技科大の教職員の皆様にお礼を申し上げたいと思います。また、先輩、同期生、後輩、研究室の教え子達にも「お久し

ぶりです」と言いたいと思います。

現在、勤務している山形大学の工学部キャンパスは、山形県の米沢市にあります。米沢市は人口およそ10万人で、“米沢牛”と“上杉鷹山公”で有名です。今年は上杉鷹山生誕250年にあたり、昨日から大々的に“上杉鷹山”祭りが執り行われています。近くにはたくさん温泉宿もあり、夏は暑く、冬は豪雪（去年は60年ぶりの豪雪でした）と、四季のはっきりした、自然豊かな、南東北の山あいにある、落ち着いた街です。工学部の前身は旧米沢工専で、キャンパス内には国の重要文化財である明治風の建物が当時の面影を残しています。また、ここは、故佐々木前学長先生の母校であるとお聞きしています。

私がここに勤務してから、既に1年と6ヶ月が過ぎようとしています。授業、研究室の立ち上げ、学内の各種委員会および行事への参加等、充実した日々を送ってきました。この間、1番大変だったことは、皆さんご承知のように、入試過誤の問題でしょうか。つい先日も後期転編入学生に対する入学式がありました。単純な入力作業ミスによって、過去5年間にわたって428名の新規の正規合格者を出すという、前代未聞の不祥事が起こってしまいました。こんなことが本当に起こりえるのかということが、本当に起こってしまったのです。発覚以来、428名全員への教官のお詫び行脚、7月入学者への特別クラスの編成、補講、精神的ケア、転編入に関する教務関係の素早い対応、補償問題等、解決に向けて教職員、一生懸命取組んできました。そのかいあって現在では、平常業務に戻りつつあります。

入試過誤に加え、大学の独立法人化への決定的な移行を控え、大学を取り巻く環境は変貌しています。生き残りをかけ、学部組織の抜本的な改革や研究費の競争的獲得化が科せられてきています。もちろん、FDや、研究テーマの選択もきびしくその直接的意義が問われ、単に知への好奇心のみでは不十分な状況が現実のものとなってきています。そのような変革の中で、若手の教官としてどのように教育、研究を発展させ、社会に貢献できるのかを考えながら、“成せば成る”の精神で、少しずつではありますが着実に歩んで行きたいと思っています。

同窓生の皆様方におかれましても、数年来のきびしい経済状況下で大変ご苦勞されていることと存じます。御身体には、くれぐれもお気をつけてご活躍されることをお祈り申し上げます。また、お近くにお寄り際にはご連絡ください。

e-mail: skawagu@poly.yz.yamagata-u.ac.jp

第5工学系同窓会収支報告

本年度から各系同窓会の会計報告を行うことになりましたので、物質工学系同窓会の会計報告を致します。

物質工学系同窓会の活動としては、会報の発送と名簿管理を主な業務としており、そのための予算を計上しています。

ここで、平成12年度決算の会費は、平成11年度分の会費を計上しています。これは、各系への会費配分額を決定する手続き上、1年遅れになるためです。また、平成12年度の会報発送作業代行費は他系の会報発送作業の一部を物質工学系同窓会が代行していたもので、平成13年度からは各系同窓会で独自に発送することが役員会で決議したため、平成13年度予算には計上していません。

■収入の部

	平成12年度予算案	平成12年度決算	平成13年度予算案
前年度繰越金	1,317,447	1,317,447	1,530,750
会費	400,000	380,000	400,000
預金利息	800	820	800
会報発送作業代行費	180,000	163,363	0
小計	580,800	544,183	400,800
収入合計	1,898,247	1,861,630	1,931,550

■支出の部

会報経費	150,000	152,517	160,000
名簿管理経費	15,000	15,000	15,000
会報発送作業代行費	180,000	163,363	0
小計	345,000	330,880	175,000
次年度繰越金	1,553,247	1,530,750	1,756,550
支出合計	1,898,247	1,861,630	1,931,550

第五工学系同窓会役員より

本冊子を手にとられ編集が変わったことにお気づきになられたかと存じます。本年からは各系独自に紙面を充実させることとなり、より充実したコンテンツを同窓生の皆様にお伝えできるものと確信しております。同窓生間の相互理解を深めるためにも、皆様の近況、ご活躍を積極的に紙面で紹介いたしたいと考えております。皆様も同窓会報を通して旧友に近況を報告してみても如何ですか？ 第五工学系役員にお申し付けください！！

第六工学系

建設工学系より

学内近況報告

建設工学系 中村俊六

まず系内の人事から報告しましょう。平成13年度から、渡邊昭彦教授が系長、加藤史郎教授が系長補佐を務めてみえます。就職担当は廣島康裕教授、教務委員は河邑 眞教授です。なお、本学には本年4月から、途上国に対するわが国の工学教育国際協力を推進するための研究拠点として、工学教育国際協力研究センター（ICCEED）が開設されましたが、筆者（中村）がセンター長（併任）に就任しています。人事異動としては、下記のように、5名の教官が転出され、5名が新しく着任されました。

就職活動については、担当の廣島先生のご報告によれば、1) 官庁関係については、受験多数なれども合格少なく、最終的には4、5名どまり、2) 設計関係は相変わらずの狭き門、土木コンサルタントも減少傾向で若干名、3) 建設会社については7、8名で、数の上では変化が無いものの大手企業（例えば、鹿島建設や竹中工務店）が減り、中堅企業が増加、4) 多いのは住宅関連で、5) いずれにしろ、大学推薦による採用（全体の約1/3）よりも自由応募による採用（同約2/3）が急増し、6) 就職先の多様化が進んでいる、とのこと。

カリキュラムについては、教務委員の河邑先生を中心に、国立大学の独立行政法人化に向けて、オリジナリティーあふれる大学づくりをめざして、検討が進んでおり、創設以来の建築・土木融合教育の意義や目標を明確化するとともに、社会のニーズに合わせたコース制導入をも視野に入れて、系をあげての議論が進んでいます。

ご存知のように、今や国を上げての構造改革の時代。大学もまた、大きく変わりつつあります。自己や外部からの評価システム導入、JABEEへの対応等の急務

■転出

田中 仁史 助教授（平成13年3月末）
小出水規行 助手（同3月末）
山中 正樹 教務職員（同3月末）
蔣 建群 助手（同8月末）
西村 和之 助教授（同9月末）

■現職

[構造大講座]

教 授：加藤史郎（系長補佐）、角 徹三、河邑 眞
助 授：山田聖志、
倉本 洋（9月着任：ICCEED 助教授兼務）、
三浦均也（10月着任）
助 手：中澤祥二、中治弘行、
大屋 誠（4月着任：技術開発センター助手兼務）
技 官：金田隆文

[環境大講座]

教 授：北尾高嶺、本間 宏、
中村俊六（ICCEED センター長併任）、
助 授：松本 博、青木伸一、
助 手：山田俊郎（4月着任）
教務職員：山本一伸
技 官：片岡三枝子

[計画大講座]

教 授：三宅 醇、渡邊昭彦（系長）、廣島康裕
助 授：大貝 彰、加藤彰一、泉田英雄
助 手：谷 武、細田智久
教務職員：金 広文（5月着任）

も多く、すでに研究費への競争原理導入が実施されています。建設業界の慢性的な不況等、不安材料も少なくありませんが、教官一同、力をあわせて頑張っていますので、ご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

新任教官より

着任のご挨拶

建設工学系助教授 (ICCEED 助教授兼務) 倉本 洋

9月1日付けで国土交通省国土技術政策総合研究所から本学に転任を命ぜられ、今年度新設された工学教育国際協力研究センターに助教授として配属されました「倉本洋 (くらもとひろし)」でございます。



専門分野は建築構造学で、主に鉄筋コンクリート構造、鋼・コンクリート合成構造の耐震性能評価に関する研究を行っております。大学では上記研究センターに所属する一方で、建設工学系の学部および大学院の授業を担当し、上記専門分野の研究指導に当たっております。

1986年に大阪工業大学大学院修士課程を修了した後、(株)鴻池組本社技術研究所、横浜国立大学建設学科、建設省建築研究所(今年4月に独立行政法人化により独立行政法人建築研究所と国土交通省国土技術政策総合研究所に分離)に籍を置き、民・学・官と立場は異なりますが、一貫して建築耐震工学に関する研究に従事して参りました。特に、建築研究所では1995年の兵庫県南部地震による被害調査とその分析、1998年の建築基準法大改正に関わる技術資料の検討・作成など、耐震工学の研究に携わるものとして貴重な経験をさせていただきました。これらの経験を少しでも本学学生への教育・研究指導に役立たせることができると願っております。一方、所属の工学教育国際協力研究センターは、新設されたばかりでこれから運営方針等を決定していく段階にありますが、建築研究所での国際研究協力官の業務経験が生かせるものと思っております。研究センターと建設工学系の仕事の両立は過分の重責と感じておりますが、何れもやり甲斐のある仕事であり、何より若い学生に囲まれながら仕事ができることは望外の喜びです。

企業に勤めること、人を教える仕事に従事すること、社会貢献という点ではそれ程差違があるとは思われませんが、若い人達を育み、社会へ送り出していくことには時間とかお金の有無の範疇を超越した価値観があると思っております。教育者としては全くの素人ですが、今日まで私を教育・指導していただいた方々を鏡として、私自身が持っている長所、知識を少しでも多く学生達に伝えることができるよう鋭意努力して行く所存ですので、宜しくお願い致します。

技科大についての印象

建設工学系助手 山田 俊郎

4月より建設工学系の助手に着任いたしました山田俊郎です。よろしくお願ひします。



豊橋に来て半年が過ぎ、こちらの生活にもようやく慣れてきましたが、長年の北海道生活のせいか、夏の暑さには非常に辛い思いをいたしました。

半年過ごした技科大の印象として、キャンパス周囲に何もなく、勉強に集中できる大変“いい”環境だなと感じました。しかし、大学が豊橋の街のなかで孤立している感じもあり、学生がバイト以外での社会に触れる機会、大学以外で刺激を受ける機会が少ないのではないかという気もします。学生は皆、非常に素直で真面目な印象を受けました。「変わった奴」をあまり見かけないのが個人的には少し寂しく感じます。

もう一つ印象的だと感じたのは、留学生が多いことです。豊橋の街自体も海外から来られている人が多いのですが、そういう方との交流する機会が多いことは、大変勉強になると思います。私自身も、大学内で完結することなく研究教育活動に精進していこうと思っています。

新任教官より

「着任のご挨拶」

技術開発センター 助手 大屋 誠 (14期)



平成7年3月に本学(加藤研)を修了し、母校の松江高専で6年間教鞭を取らせていただいています。平成13年4月より、

本学技術開発センターの助手として赴任しました。

現在は、主に加藤史郎教授の元で鉄筋コンクリートシェルの耐力に関する研究を行っています。今年1年は、大学院のころより研究してきたことをまとめる作業を行っています。

これまでは、授業、学生指導、研究と忙しい毎日を送っていましたが、ここでは、研究に集中できる時間を取っていただいています。研究ができる反面、成果を残さなければならないというプレッシャーと日々戦っています。

来年度からは、また松江高専の方に戻ることになっていますが、これから高専で始まる教育改革に立ち向かうことのできる力と体力を付け、今後がんばっていきたいと思っています。

研究室だより

河邑研究室の近況

河邑研究室 修士課程1年 細貝 浩 士

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。お元気で活躍されていることと存じます。河邑研究室の近況について報告させていただきます。

当研究室は現在、博士課程1名、修士2年生3名、修士1年生3名、学部4年生1名の全7名という構成になっています。若干人数が少なめですがその分強い団結力を持って日々研究と勉強に励み、またことあるごとに集まって交流を深めています。また、今は各論文の完成に向けて活発に活動をしています。

では現在行っている研究の紹介をさせていただきます。研究は大きく2つのテーマに分けることができます。1つは地震による地盤の挙動解析、もう一方は衛星画像とGIS(地理情報システム)を利用した地域の環境・防災問題に関する研究です。地震時の動的問題については3次元並列FEM(有限要素法)を適用し、液状化による流動現象の問題については3次元2相連成DEM(個別要素法)という手法を適用して研究を行っています。最近PCの性能の向上が目覚しく、複雑な条件での解析も行えるようになり、より現実に近い形での厳密な解析を目指しています。リモートセンシングとGISをもちいた環境・防災に関する研究に関しては、LandsatやSPOTといった従来の人工衛星画

像のほか、IKONOS衛星から取得される解像度1mという超高解像度画像や、雨天時もデータ取得が可能なSAR画像の利用についても研究を行っています。どちらの研究も将来に役立つ先進的な技術の開発を目標に頑張っています。

以上が当研究室の近況です。皆様、お近くにお越しの際にはぜひお立ち寄りください。その際には社会に出るための心構えや学生時代の思い出話などをお聞かせください。いつでもお待ちしております。

最後になりましたが、皆様の更なるご活躍とご健康をお祈りしております。



研究室だより

青木研究室の近況

青木研究室 修士課程2年 牧野友美

OB・OGの皆様いかがお過ごしですか？今年も海研は青木先生を中心に、学部5人、修士6人、博士1人というメンバーでがんばっております。

この夏は海研初のOB会を開催することができました(8月11日(土)午後6時、場所：かに本家豊橋店)。まだ若い研究室ということもあり、OB会というよりもクラス会のような雰囲気での楽しい時間を過ごすことができました。2次会の居酒屋、3次会のカラオケと、全員参加(もちろん青木先生も)しているあたり、皆さんまだまだ学生のノリを忘れていないようですね。来年も是非やりたいと思っていますので、今年来て下さった方も、来られなかった方も、お誘い合わせのうえご参加ください。

今年はお客様の多い夏でもありました。7月は石川高専から鈴木洋之先生が研修に、8月には豊田高専から水嶋悠子さんが実習生として研究室にいらっしゃいました。鈴木先生には毎年恒例の名大・阪大とのゼミ旅行にも参加していただきました。水嶋さんは夏真っ盛りの現地観測・作業に果敢にチャレンジしておりました。それぞれ2週間という短い期間ではありましたが、研修・実習の内容だけでなく、人とのつながりを広げるといっても良い出会いになったのではないかと思います。

そろそろ研究室では、夏のうちにためこんだ観測データをまとめる時期に入っていました。本年度は学部5人、修士5人、博士1人が論文を書き上げる予定です。おそらく青木先生にとっては過去最高本数になると思います。学生も大変ですが、一番大変なのは青木先生ではないでしょうか。10月からは、共同研究をしているクイーンズランド大学のDr. Hubert Chanson氏が3ヶ月の予定で来校されます。気泡連行グループのそして青木先生の強い味方となることでしょう。

昨年ホームページをリニューアルいたしました。こちら(<http://jughead.tutrp.tut.ac.jp/coastal.html>)でも研究室の近況等お知らせできればと思っております。掲示板の書き込みも大歓迎ですので、一度お立ち寄りください。



建設工学同窓会収支報告

昨年の9月に建設工学同窓会の幹事長になりました13期卒の谷です。就任から平成13年9月1日現在までの1年間の収支決算を、下記の通りご報告いたします。建設工学同窓会の収入は、全学同窓会からの分配金と

建設工学同窓会名簿売上金から成り立っており、主に建設工学同窓会報・名簿の作成及び郵送に伴う費用として有効に使われております。豊橋技術科学大学助手
建設工学同窓会幹事長 谷 武(13期生)

平成12年9月1日から平成13年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

■収入の部

名	目	金	額
平成12年9月1日現在		1,165,803	
全学同窓会からの分配金		236,880	
建設工学同窓会名簿売上金		486,000	
普通預金利息		595	
小計		723,475	

■支出の部

平成12年度総会出席者交通費		4,880
名簿購入案内・住所変更通知用葉書の郵送に伴う費用		170,205
建設工学同窓会名簿データ変更作業費		30,250
建設工学同窓会報・名簿の作成及び郵送に伴う費用		687,100
25周年記念シンポジウム打ち合わせ参加者交通費		32,360
小計		924,795

■残 金

平成13年9月1日現在		964,483
-------------	--	---------

第七工学系

知識情報工学系より

学内近況報告 知識情報工学系 杉浦彰彦

知識情報工学系の近況をご紹介します。

各大講座の教官は図の通りです。教官の人事としては、分子情報工学大講座の大澤映二教授が退官されました。また分子情報工学大講座に関野秀男教授、情報科学大講座に村越一支講師が着任されました。さらに分子情報工学大講座の高橋由雅先生が教授に昇格されました。また情報科学大講座の市川周一先生と、機能情報工学大講座の金澤靖先生が助教授に昇格されました。それから7系事務官の丸木仁史さんが研究協力係に異動となり、研究協力係から三輪恵子さんが着任されました。

就職関係では数年前の風当たりの冷たさも少し和らぎ、学生達にも希望が見えてきています。情報関連の学系であることも支えになり、好転しつつある様に見受けられます。諸先輩からも在校生にエールを送ってやって下さい。

卒業生の皆さんも大学の近くに来られた時には、先生や後輩達に近況を話にお立ち寄り下さい。皆さんの笑顔が何よりの土産になることと思います。

[情報科学大講座]

教授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝
 助 教授：河合和久、市川周一
 講 師：村越一支
 助 手：西尾孝治、渡邊裕司

[機能情報工学大講座]

教授：山本真司、新田恒雄、堀川順生
 助 教授：金澤 靖、杉浦彰彦
 講 師：北崎充晃
 助 手：滝沢穂高、桂田浩一

[分子情報工学大講座]

教授：阿部英次、関野秀男、高橋由雅
 助 教授：船津公人、後藤仁志
 助 手：栗田典之、加藤博明

[事務関係]

事務官：三輪恵子
 技 官：小西和孝

[学生現員]

学 部：1年次16名、2年次17名、
 3年次61名、4年次76名
 修 士：1年次47名、2年次53名

～退官教官より～

大澤 映 二



定年が事業化元年となるか？

科学技術基本法が制定されて以来、科学者の生き様が明らかに変わって来た。最も顕著な変化の一つが国を挙げての起業家支援体制整備であろう。これまで日本の優れた若者が思い描く理想人生コースは、一生懸命に勉強して良い大学に入って、それから大会社に入って安定な職場を確保し、そこで仕事に精を出すという構図であった。私自身も前半は大会社、後半は国立大学というコースをあまり疑問も持たずに歩んでき

た。そこで、定年を機に今の起業機運に便乗することにした。偶々私が技科大に移った年（1990年）に始まったフラレン研究がとうとう実用化の域に達し、いまやナノテクノロジーブームの中心的役割を担うまでに至ったので、滑り出しはまず順調である。

会社の業種はナノテク関連とゲノム関連の二本立てである。前者では、年来の興味であるフラレン生成機構の研究が発展してC60および小さな多層フラレン（C60@C240, C60@C240@C540など）の大量生産法に至るブレイクスルーが達成できそうである。現行のカーボ

ンブラック製造装置と原料をそのまま使えるので経済的なメリットも大きい。後者は20年来行って来た計算理論化学の集大成というべきテーマで、ポテンシャル関数の非経験的決定を発展させて蛋白質の動的シミュレーションおよび結晶構造予測の精度を飛躍的に向上させることを目標にしている。この課題は技科大で培った情報化学の知識が重要な役割を果たしていること、およびアルゴリズム著作権保護依存が特徴である。

会社は今のところ必要最小限の大きさであるが、大きくする考えはない。研究会社に徹して、基礎研究の楽しみを謳歌しつつ実用と結びつけるモデルケースを作れないかと夢見ている。研究費をどうするか？在職中は幸運にも日本政府から非常に寛大な研究費を支給され、支給総額は12億円に達した。これがすべて現在行っている研究の基礎になったわけで、その意味で国に対して感謝の念に堪えない。更に研究費を国にねだるのはあまりにも厚かましいので、これから先は

財源を民間投資に仰ぐのが筋であろうと考えている。この方法については、今の日本の低金利政策が追い風となって甚だ有利な情勢にある。

ところで、日本の社会の仕組みが大学を含めて大幅に変わろうとしている。我々に身近な部分に話を限れば、上に述べたような小規模の個人的研究グループ育成に加えて、大学制度の見直し、再編成、評価導入などが目立った動きであろう。後者について言えば、私の在任中は教官の研究実績を科学的に評価して採用、昇任、あるいは賞与に反映させるといった一般社会では当たり前の通念が学内であまり通用しなかったのが、残念でならなかったが、これも風潮が変わりつつあるようで喜ばしい。少なくともこれらの部分に関して、日本は良い方向に動きつつあると感じる。ただし、米国の同時多発テロに対する政府やマスコミの対応などは、世界の常識から明らかにずれている。これから真剣に取り組むべき問題である。

研究室だより

〈情報科学大講座〉 磯田研究室の近況

知識情報工学課程学部4年 河 口 桂 大

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いにご活躍のことと存じます。この度は、磯田研究室の近況についてご報告したいと思います。

現在の研究室の構成は、磯田教授を中心として、西尾助手と学部生6名の総勢8名となっています。修士生は昨年度で全員卒業されたため今年はいませんが、学部生の数は7系の中で最も多いという、大変人気のある研究室です。今年、また、新たなメンバーで、新たな研究を行っております。

磯田研究室では、オブジェクト指向方法論についての研究を行っております。その中でも、Jacobsonが開発したユースケース駆動の方法論OOSEおよびRational Unified Development Processを中心に、RumbaughのOMT、Booch法などオブジェクト指向方法論の評価、研究をしています。また、これらに改良を加え、より良いオブジェクト指向分析・設計の手法も提案しています。

これにより、変更に対して修正を受ける範囲が限定されている、保守性が高いソフトウェアの開発や、フレームワーク（アプリケーションの半完成品）による大きな単位の再利用、ソフトウェアアーキテクチャ、設計の再利用（再利用の促進）や、シームレス（継目の無い）なモデルによる開発プロセスの効率化を目指

しています。

この他にも、統一モデリング言語であるUML (Unified Modeling Language)、分析・設計パターン、オブジェクト指向言語の研究も同時に行っております。

ゼミは週に3回行っています。それぞれ、各自の研究経過を報告するミーティングをはじめ、英文の本を用いた輪講、UMLやプログラミングの演習を行っております。少人数で行われるため、非常に内容が充実しており、一週間が瞬く間に過ぎてしまいます。

諸先輩の皆様、豊橋へお寄りの際は、ぜひ研究室に立ち寄り、助言など頂けたら嬉しく思います。研究室一同、心よりお待ちしております。尚、写真は、磯田研究室のホームページ (<http://www.selab.tutkie.tut.ac.jp>) です。お時間があれば、こちらもお覧になってください。

磯田研究室

ソフトウェア基礎学研究室
磯田研究室では、工業的にソフトウェアを開発するための方法論、支援系などを研究しています。

研究室の紹介

- 研究内容
 - クラス図変形規則系
 - 過去の論文ファイル(7系のみ)
- 磯田教授
- 研究室学生メンバー

リンク

- 豊橋技術科学大学
 - 知識情報工学系
- 社団法人 情報処理学会
- FreeBSDハンドブック/Qt/A/検索

研究室内向の情報

〈機能情報工学大講座〉 新田研究室の近況

知識情報工学専攻修士2年 福田 隆



卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様はそれぞれの職場でご活躍されていることと存じます。

さて、新田研究室の近況を報告したいと思います。現在、新田恒雄教授を中心に、桂田浩一助手、小林聡助手、山田博文助手の指導の元で学生は日夜研究に励んでおります。本研究室は4名のスタッフと修士2年5名、修士1年5名、学部5名、総勢19名で構成されています。本年度からバングラディッシュ出身の留学生が研究室の一員となっています。

現在、本研究室では、人間とコンピュータがマルチメディアを介して対話するシステムの構築を目標に、様々な基礎技術・応用技術の開発に取り組んでいます。大きく分けてMMI (Multimodal Interacton) グループ、エンジングループ、概念獲得グループに分かれて研究を進めています。MMIグループでは、対話システムの入出力統合処理や、対話制御を実現するための基本機能実現、および対話シナリオを記述するための言語仕様策定を行なっています。またMMIを使った応用システムの開発を進めています。エンジングループでは音声認識エンジンの精度を向上させるため様々な研究に取り組んでいます。そして、概念獲得グループでは、システム内のエージェントに概念を獲得させる方法を探求しています。

本研究室は新歓にはじまり、研究室旅行やボーリング大会などさまざまな行事に取り組んでいます。本年度の研究室旅行は研究室始まって以来、初めての海でした。初めての試みに研究室一同、胸を高鳴らせていました。新田先生にも気に入ってもらえたようです。来年以降も海水浴が研究室旅行の候補に上がりそうです。

最後になりましたが、豊橋に来られた時には、お気軽に研究室に足を運んでください。研究室一同、心よりお待ちしております。もちろん研究室旅行への参加もお待ちしております。

〈分子情報工学大講座〉 船津研究室の近況

機能材料工学専攻博士2年 荒川 正 幹



卒業生および修了生のみならず、いかがお過ごしでしょうか？ それぞれの職場でおおいにご活躍のことと存じます。最近の船津研究室の様子についてご報告致します。

現在の船津研究室は、博士2名、修士1年2名、学部4年4名の計8名となっています。学部生のうち2人は女の子ということもあって、とても明るく楽しい雰囲気の中、日夜研究に励んでいます。船津公人助教授におかれましては、電子ジャーナル Journal of Computer Aided Chemistry (<http://www.chemistry.or.jp/journals/jcac/>) 編集委員会委員長や、CACフォーラム (<http://www.cac-forum.gr.jp/>) 代表へも就任され、ますます精力的に研究活動を行っておられます。研究室では、月に一回の報告会と、週に一回の雑誌会を行っています。報告会では各自最近の研究成果を報告し、問題点や今後の研究方針について、船津先生を中心として熱心な議論が展開されています。また雑誌会では、最近の学術雑誌の中から各自興味のある論文を選び、日本語に訳してみんなに説明をし、全員でその論文について議論を行います。最新の研究動向の知識が得られ、とても勉強になっています。夏休みも終わり、これから卒業論文の追い込みや、学会発表の準備などで忙しい日々が続きますが、みんな気を引き締めてがんばって研究していきます。

詳しい研究内容や、研究室の近況などは船津研ホームページ (<http://www.quebec.tutkie.tut.ac.jp>) にて公開しています。各学生の研究テーマの紹介をはじめ、充実したホームページとなっていますので、是非一度ご覧下さい。毎年恒例の研究室旅行の写真なども掲載してあります。今年は熱海、伊豆へ2泊3日で行って来ましたが、好天にも恵まれとても楽しい旅行となりました。

最後になりましたが、先輩方の今後の更なるご活躍をお祈りしております。豊橋に来られた時には是非研究室にお立ちより下さい。みなさまのご来校を研究室一同、心よりお待ちしております。

「OB/OGの近況」

秋田県立大学（7系斉藤研OB） 徐 粒



先生各位、在校生、卒業生、修了生の皆様、如何お過ごしでしょうか。お変わりなくお元気でご活躍なさっていることと存じます。

本当に“光陰矢のごとし”。昭和62年10月に5年間の留学予定で豊橋技科大に来たとき、5年間との期間を非常に長く感じていました。しかし結局、当時は想像もなかったことに、修士・博士課程の学生として5年間、その後助手としても5年間、計10年間もの歳月を技科大で過ごしました。技科大での勉学・研究で自分の研究者としての基盤を築くことができ、非常に充実で忘れがたい人生の一頁でした。平成10年3月、転勤で技科大を離れ、あっという間に3年間あまりが経ちました。教育、研究、学会など色んなことに追われて母校を再訪するチャンスがなかったが、雲雀ヶ丘を吹き通る“香り”豊かな母校の風がとても懐かしく思い出されます。

それではこの場をお借りして、自分の近況を、技科大と関係のある先生やOB達とのいくつかの再会を交えながら、簡単にご報告させていただきます。

技科大を離れてから平成12年3月までの2年間は、岐阜県穂積町にある朝日大学経営学部で講師として勤めました。私立大学の共通の特徴でしょうが、担当講義の数と時間数がとても多く、従って授業以外に自分

の研究もやりたいならば、土日や休日を利用するしかないという状態でした。このとき、技科大での学生と助手時代はまるで天国のように思えました。しかし、これはまた自分の教育活動にとって非常に貴重な経験となりました。なおここで、技科大に来た当時4系の系長を務めていらした秋丸春夫先生と再会し、そして技科大で在籍した斉藤研究室の1期生でした先輩の板谷雄二先生と出会いました。両先生には公私にわたっていろいろと大変お世話になりました。

昨年4月に、秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科のシステム制御工学講座に助教授として転勤してきました。本大学は平成11年に開学した新しい大学で、それぞれ秋田と本荘のキャンパスに設置されている生物資源科学部とシステム科学技術学部からなっています。また本荘市は、秋田県の西南部に位置する人口5万人足らずの小さい市ですが、山・川・海の豊かな自然に恵まれて、非常に生活しやすいところです。近くに、出羽富士と呼ばれる美しい景観を誇る鳥海山がそびえていて、そして、多くの文人墨客が訪ね、松尾芭蕉の奥の細道の最北の地として知られている象潟、南極探検で有名な白瀬蘆中尉の故郷の金浦など多くの名勝地があります。現在、海外出張に行くときの交通の不便を除いて（まもなくソウルへの直行便ができ、乗り換えが便利になることを期待しています）、ここでの“田園”生活に非常に満足しています。何故か東京のようなコンクリートの塊のところから緑一杯の秋田に戻ると、呼吸さえも楽になるほど落ち着きを感じます。また、ここにきて、私とほぼ同じ時期に技科大に留学にきて、1年あまりで中国に帰った呉勇波さんと10数年ぶりに再会し、現在は家族ぐるみのお付き合いとなっています。そして、去る9月に、電気関係学会東北支部連合大会が本大学で行われた際、現在東北大学に勤めていらしゃる阿部健一先生、会津大学で勤めている森和好さん（4系）と岐阜高専で勤めている山田実君（7系）と久しぶりに再会し、技科大関連の話に花を咲かせました。

推敲する時間もなく気楽に思いつくまま書いてきましたが、最後に各先生方、皆様の今後更なるご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

7系同窓会 平成11-12年度収支報告及び平成13年度予算案

豊橋技術科学大学 7系同窓会
三井住友銀行 豊橋支店 普通預金 口座番号 884420

■収入の部

	平成11年度決算	平成12年度決算	平成13年度予算案
前年度繰越金	1,586,940	2,026,212	2,579,055
会費（各系分配金）	530,000	627,146	650,000
預金利息	672	1,297	1,500
小計	2,117,612	2,654,655	3,230,555
収入合計	2,117,612	2,654,655	3,230,555

■支出の部

会報経費			
会報送費	63,400	61,600	80,000
会報送作業費	8,000	8,000	10,000
原稿執筆御礼	0	0	12,000
名簿管理経費			
名簿更新作業費	4,000	4,000	5,000
住所確認作業費(*)	16,000	2,000	0
小計	91,400	75,600	107,000
次年度繰越金	2,026,212	2,579,055	3,123,555
支出合計	2,117,612	2,654,655	3,230,555

*住所確認作業費は、平成11年会報発行時に同封した(系独自の)住所確認ハガキ代、及びその整理アルバイト代。

第八工学系

エコロジー工学系より

学内近況報告

エコロジー工学系系長 松 爲 宏 幸

平成13年度のエコロジー系長を仰せつかりました。大学の統合・再編成および法人化など激動期を迎えて難問が山積みされ対処に頭を悩ませていますが、折角ですからこれを契機として新たな発展を遂げることを願っています。文部科学省は上位30大学に限って、学問領域別評価を行った上で研究費を重点配分するという方針を進めています。エコロジーのような境界領域分野では、相対評価基準がはっきりと規定されないもので、非常に苦しいのですが、それぞれの学問分野で内外共に高い評価を受ける事が出来るよう、より一層、構成員全員が教育・研究の質の向上を目指して努力する事以外に解決の道はないと思われれます。

明るいニュースとしては、昨年の本会報にも載っていましたが、大学院棟（F2棟）が新築され学生実験専用の部屋、共通機器室などが新たに出来ました。当初予定されていた各研究室のスペース配分も同時に完了し、これでもって教育・研究体制はようやく大きな制約から解放されました。

人事異動としては、昨年度末、鈴木慈郎教授、笠倉忠夫教授が退官され、また後藤尚弘先生がエコロジー系助教授へ昇格、胡 洪営助教授は中国清華大学に、野田玲治助手が東京農工大学へ、教務職員岡村 聖さんは名古屋産業大学にそれぞれご栄転されました。鈴木慈郎先生には名誉教授の称号が贈られました。今年度からの新しい陣容として第1講座 平石研究室助手 二又裕之さん、第2講座 藤江研究室助手大門裕之さん、第3講座 金研究室教務職員村上高広さんが着任

されました。また原田則子事務官の長期休暇に伴って5月より辻 博樹さんが事務室を担当されています。金 助教授、倉田学児助手はいずれも米国に長期（1年）出張中です。

エコロジー系の様な新しい学科に対する社会的評価は未だ定着していません。これは、ひとえに教職員・学生の今後の努力に関わる事は無論ですが、当系の評価のさらなる向上が達成されるためにOB、OGの貢献は無視できません。卒業生の皆様がそれぞれの分野で活躍される事を心から念願しています。

[生態基礎工学大講座]

教 授：菊池 洋、平石 明
助 授：S. S. Siddiqui, 桂 進司, 田中照通
助 手：安田八郎, 二又裕之, 松澤有希子

[生物応用工学大講座]

教 授：水野 彰, 藤江幸一
助 授：田中三郎, 辻 秀人, 後藤尚弘
助 手：大門裕之, 高島和則

[生態環境工学大講座]

教 授：松爲宏幸, 北田敏廣
助 授：木曾祥秋, 金 熙濬, 成瀬一郎
講 師：Del Carpio C. A.
助 手：倉田学児, 小口達夫
教務職員：村上高広

[技 官]

坂井悦子

[事 務]

辻 博樹, 市橋洋子

[学生現員] (平成13年4月1日現在)

学 部：1年次13名, 2年次13名,
3年次51名, 4年次56名,
修 士：1年次40名, 2年次48名

～退官教官より～



鈴木 慈 郎

「見えたもの、見えなかったもの」

私が博士の学位を頂いて20年以上も過ぎてから、その当時同じ研究室にいた仲間と年に一度の旅行会をするようになった。数年前、このグループでかつての指導教官北原覚雄先生のお墓参りをしようということになり、信州高遠へ出かけた。4月初旬、桜はまだであったが、自然に恵まれた素晴らしい所であった。それだけに道は狭く坂道ばかりで対向車をやり過ごすのに大汗をかけた。先生のことを覚えているという近所のお婆さんにお墓の案内ばかりか昼のご飯までご馳走になった。その上、今は無人のはずの先生の生家を訪れたところ、全くの偶然ながら先生の奥様が居合わせておられ、お宅が昔そうであった造り酒屋の様子を拝見することができた。そう、先生は造り酒屋の息子だったのだ。高い天井、古ぼけた桶。そんなものを眺めながら私は昔のことを思い出した。

当時五十歳台後半でいらした先生は真面目一方で、冗談を自ら口にされることは稀であった。また、先生は大変な勉強家で、私など夜遅くまで実験して教授室のソファの上で休んでいると、先生が朝早く見えてしまうので、こちらは大いに困った。退官後、入院された先の病室のベッドの上でも論文を読んでいらした。先生のご研究の大半は乳酸菌をめぐるものであった。ちなみに乳酸菌は酒造りの大敵である。私の頂いたテーマも乳酸

菌の新しい菌株の分類であった。ところで学年が進むにつれて、先生と私との関係は気まずいものになり始めた。当時、分子生物学の勃興期で、メッセンジャーRNAの役割とかその翻訳の機構とかようやく分かり始めた頃であった。そのようなニュースを耳にするにつれて、自分のテーマが古臭く思えて来たのだ。その点を先生に相談してみたが、議論は噛み合わなかった。ひとまず学位だけは頂いてしまっ、あとは勝手にすれば良からうと私は考えた。それでも分類学とDNAとを何とか関係づけようと無い智恵をしばって学位論文を書き上げた。

学位を頂いた後は、乳酸菌にキッパリ別れを告げて、自分の心のうちでは、腕一本で大海に乗り出していったつもりではあった。しかし、先生からは仕事のお誘いをその後一度ならず頂いた。いずれも乳酸菌が絡んでいたもので、さっさとお断りしてしまった。逃げ出した学生でも引っ張って来て乳酸菌をやらせようという、先生の執念深さにかえって反発を覚えるばかりであった。しかし、当時の菌株も細菌分類学の標準的のハンドブックに後に記載されるようになったのを見て、心の中では先生の粘り強さに脱帽せざるを得なくなっていた。あの執念に対する反発と尊敬の入り混じった気持ちを古びた造り酒屋の中で改めて味わった。

～退官教官より～



笠倉 忠夫

「退官後」

八月に入って、少し時間のゆとりが取れるようになりました。退官して今までとは違う世界に暮らす筈だったのに、七月までの四ヶ月間はこれまでの行き掛かりを引き摺って、余りゆとりがありませんでした。様々な委員会、学会行事、講演会、更には海外研修生や大学の講義まで引き受けて、スケジュールの調整に苦労する有様でした。しかし、大学時代とは違い、忙しいとは言えども予約以外の拘束はないので、約束を違えない限り予約以外の時間を自由に使うことが出来ます。予約の合間を縫って、箱根、御殿場、斑尾一妙高、軽井沢と四回休養を取ることが出来ました。静かな保養地でゆったりした時間を優雅に過ごすと、精神が伸びやかに成ります。しかし未だ、名古屋市、豊橋市などの自治体や幾つかの財団あるいは化学工学会を始めとする学会など10以上の委員会の委員長や委員を引き受け、当分ゆとりの有る優雅な生活と言う訳には行きそうにもありません。

考えて見れば、優雅さには欠けるとしても、菲才の身で有りながら些かなりとも社会貢献を果し得るのであれば、我侭を言うべきではありませんまい。社会貢献と言えば、最近私は依頼される講演では出来るだけテーマを「持続可能な社会」とさせて頂いています。今、世の中では環境問題への対応として「循環型社会の構築」と言う言葉が持て囃されています。しかし私はこれが対応への最適解かどうかにか些か疑問を感じています。社会に

於ける物質の循環は、それぞれの社会の条件の下で合理的に行われており、物質循環を変えるためには先ず社会の成り立ち方、条件を変更しなければなりません。その努力を等閑にして、見せ掛けだけの循環は反って合理性を失う懸念があります。私達の究極の目標は持続可能な社会を構築することです。このような議論を一般の人達は殆ど理解していないのです。環境問題を始めとした現代の科学技術が関連した問題については、一般の人達には問題の所在、その解釈、あるいは解決法を自ら明らかにすることは不可能です。つまりこれらの問題への対応は、一般の人達にとって強い情報依存性を持っています。元来、このような問題そのものが科学技術の進展に関わりが深く、その意味からも科学／技術に携わる者にはそれぞれの問題に対するアカウントビリティがあると思います。これに関連して、昨年（平成12年度）後期の非常勤の講義「人間と科学／技術」に触発されて、科学技術関連の文献を漁っています。幸い今、科学技術の講座、双書が刊行中で楽しく読んでいます。これらを元にこれからも「持続可能な社会」を熱く語って行きたいと思っています。

ふと夕暮れの庭を眺めると、酷暑の最中なのに何故か赤トンボが一匹飛んでいます。軽井沢は大変涼しく、赤トンボの大群が舞っていたので、軽井沢から連れ帰った一匹かも知れません。時々優雅な夢を見ながら頑張っています。

研究室だより

生物情報研究室の近況

エコロジー工学系 生物応用研究室 助手
高島 和 則

卒業生、修了生の皆様におかれましてはますますご活躍のことと存じます。

さて、生物応用ならびに生物情報研究室の近況を報告させていただきます。

我々のグループは水野彰教授、桂進司助教授の下、助手2名、博士課程学生4人、修士課程学生10人、学部学生8人の総勢26名で静電気的手法を利用した環境保全技術やDNAの操作技術の研究を行っています。

プラズマ中では常温下では起こらないような様々な反応を起こすことができます。ディーゼルエンジン排ガスの浄化は社会的にも急務であり、基礎的な反応の解析から実用化に向けた研究までの幅広い研究を行っています。室内空気浄化技術も今後その重要性が高まってくることが予想されることから、有機溶媒や臭気物質の除去、浮遊微生物やウイルスによる感染防止やアレルギー抑制などに関する研究を行っています。

また、より汚染物質の排出が少なく、効率の高いエネルギー利用システムの開発も極めて重要な問題であり、プラズマを利用した燃料改質によりエクセルギー損失の低い燃料を作り出す研究を行っています。

DNA1分子の操作・観察技術はDNA解析の圧倒的

な高速化を可能にする技術であり、DNAを用いた病気診断等に利用できるだけでなく、DNAの特定部位だけを対象とした解析をも可能になり、ライフサイエンスの分野へも新しいアプリケーションを拓くことができます。従来法ではいったんバラバラにしたDNAを対象として解析を行わざるを得ず、DNA断片の再配列に莫大な時間を要していました。我々の研究室では、DNAの1分子操作を利用してシステムの構築を目指しています。また、1分子観察技術を用いてDNAとタンパク質との相互作用を顕微鏡下で直接観察することにより、DNAの様々な反応機構を分子レベルで明らかにすることを目指しています。

我々は「真に人の役に立つ技術」を目指して研究を行っています。Web Page (<http://mizlab.eco.tut.ac.jp/>)にてより詳しい研究室の紹介を致しておりますのでご覧いただけましたら幸に存じます。最後になりましたが、皆様方の今後のご活躍を心よりお祈りしております。



「エコロジー工学系同窓会会計報告」

エコロジー工学系同窓会幹事 村上 高広、松澤有希子

本年度のエコロジー工学系同窓会収支を下記に示します。本系同窓会用の印鑑について、従来までの個人印から同窓会専用の印鑑へ変更しました。6月には、修士2年樋口篤志君が癌のため亡くなり（心より御冥福をお祈り申し上げます）、葬儀の際にエコロジー工学系同窓会名で弔電をうちました。大学の同窓会会則には、学生が亡くなった際の規定がなく、エコロジー工学系同窓会として独自の判断で行うこととしました。

会計収支（平成12年9月～平成13年8月）

前年度繰越金：2,492,241円

支 出

通帳用印鑑	： 17,210円
弔 電	： 2,110円
合 計	： 19,320円

エコロジー工学系同窓会事務局より～

エコロジー工学系同窓会は発足したばかりで、まだこれといった活動を行っていません。会費を有意義に活用するためにも、できるだけ多くの方のご意見を伺いたいと考えております。ご意見等ございましたら、エコロジー工学系同窓会幹事松澤有希子 (matuzawa@eco.tut.ac.jp) まで、お気軽にご連絡ください。また、同窓会幹事も募集しますので、是非やってみたいという方も上記までご連絡ください。

第九学系

人文・社会工学系より

学内近況報告

中 森 康 之

卒業生、修了生のみなさん、お元気で活躍のことと思います。

人文・社会工学系、語学センター、体育・保健センター、未来技術流動センターの平成13年度のスタッフは以下の通りです。

今年度は転入、転出はありませんでした。

西村先生がグラスゴー大学（スコットランド）での在外研究（2000年6月8日～2001年4月5日）から戻られました。西村先生曰。「500年の歴史を持つグラスゴー大学にして、いかに大学を売り込むかに非常に力を注いでいるのには驚いた」。わが技科大も、さらに魅力ある大学になっていかなければなりません。もちろん私たち人文・社会工学系のスタッフも、常に「総合的人間教育」を念頭に置き、日々工夫を重ねております。

また、授業とは違った私たちの研究活動の一端を知っていただくべく、紀要「雲雀野」を年一回発行しています。

最後に、皆様の一層のご活躍をお祈り申し上げます。



[人文・社会工学系]

教 授：浜島昭二(系長)、藤原孝男、宮田 譲、山口 誠

助 教 授：相京邦宏、尾崎一志、河合弓子、中森康之、西村政人、平松登志樹

助 手：渋澤博幸

外国人教師：マーシャル リチャード ジョゼフ

[語学センター]

教 授：伊藤光彦(センター長)、小杉隆芳、山本 淳

助 教 授：加藤三保子

講 師：村松由起子、結城正美

教務職員：鈴木聖子

[体育・保健センター]

教 授：安田好文(センター長)

助 教 授：柳原 大

[未来技術流動研究センター]

教 授：古川泰男

助 手：白川正知

計画・経営科学講座の現況

修士課程2年 長 野 修

卒業生ならびに修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。きっとそれぞれの職場で御活躍されているものと存じます。

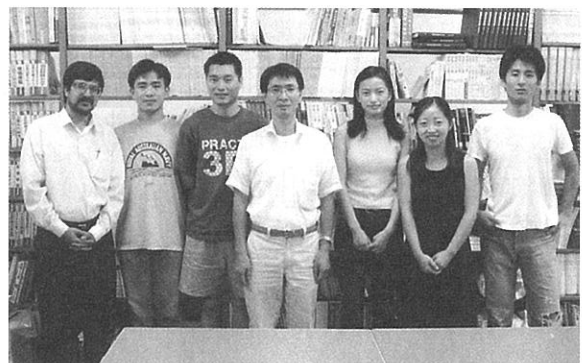
まずは我ら計画経営研究室の現状から御報告しましょう。教授陣の山口誠教授、宮田譲教授、そして平松登志樹助教授、渋澤博幸助手については御存じでしょう。近年になって、新しく経営学を専門とする藤原孝男教授が赴任されました。現在、我が研究室には博士課程が1名、修士課程は8名在籍しており、さらに来年に修士課程へと入学すべく、中国からの研究生が1名おります。計画経営研究室に留学生が多いのはもはや伝統になっており、国籍別で見ますと、中国人が6名、タイ人と日本人がそれぞれ2名ずつという構成になります。ここでは日本人は少数派なんですね。さらに今年の夏から研究員としてイランからモバへさんが、また夏休みの間だけポスト・ドクター・フェローとしてドイツからミュラーさんがやってきました。

このようにちょっと変わったメンバー構成の私達ですが、研究対象が経済・経営・社会であるということも、工学系の大学としてはやや異色かも知れません。実際、受け入れる学生は修士以上からで学部学生はとっておりませんし、関連する講義も比較的少ない方です。しかし、今日の複雑化した社会においては、資源の有効活用といった政策科学的な分析も欠かすことができません。日進月歩の科学技術に対応したモノ作りももちろん大切ですが、今後私達の研究分野にも多くの学生が集まってくることを期待しています。

さて、最近（9月）は修士2年の学生達が増えます真剣な顔になってきた頃です。息抜きを兼ねて、夏休みに浜辺でバーベキューをしたことが思い出されます。最後になりましたが、卒業生ならびに修了生の皆様、今後のますますの御活躍を、研究室一同心から願っております。

最近の修士・博士論文テーマ

- 物質循環型社会の応用一般均衡分析
- 東京都製造業の生産関数に関する研究
- 人的資本を考慮した都市群システムの成長に関する研究
- 中国経済におけるエネルギー需給問題に関する研究



第50回東海地区国立大学体育大会総合成績一覧表(男女団体別)

日 時：平成13年6月30日～7月1日 当番校：岐阜大学
平成13年7月7日～8日

項目	順位		優 勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備 考
	男	女									
1 陸上競技	男		岐大 8	三重大 6	静大 5	名大 4	愛教大 3	名工大 2	豊技大 1		
	女		愛教大 5	名大 4	静大 3	三重大 2	岐大 1				
2 水 泳	男		名大 10	三重大 8	愛教大 6	岐大 5	静大 4	浜松医科 3	豊技大 2	名工大 1	
	女		岐大 8	三重大 6	愛教大 5	浜松医科 4	名大 3	静大 2	名工大 0		
3 硬式野球											雨天中止
4 準硬式野球			三重大 10	岐大 8	豊技大・静大各5.5		名工大・愛教大・浜松医科・名大各2.5				
5 テニ ス	男		静大 10	岐大 8	浜松医科 6	名大 5	名工大・豊技大・愛教大・三重大各2.5				
	女		浜松医科・名大各9		愛教大 6	岐大 5	名工大・豊技大・静大・三重大各2.5				
6 ソフトテニス	男		名大 10	三重大 8	愛教大 6	静大 5	豊技大 4	名工大 3	岐大 2	浜松医科 0	
	女		名大 5	岐大 4	愛教大 3	静大 2	三重大 1				
7 バスケットボール	男		名工大 10	岐大 8	三重大 6	名大 5	静大 4	愛教大 3	浜松医科 2	豊技大 1	
	女		静大 6	愛教大 5	岐大 4	名大 3	三重大 2	浜松医科 1			
8 バレーボール	男		名大 10	岐大 8	三重大 6	愛教大 5	静大 4	豊技大 3	名工大 2	浜松医科 1	
	女		愛教大 8	岐大 6	名大 5	静大 4	三重大 3	浜松医科 2	名工大 0		
9 卓 球	男		名大 8	静大 6	名工大 5	岐大 4	豊技大 3	三重大 2	愛教大 1		
	女		愛教大 4	静大 3	岐大 2	三重大 1					
10 バドミントン	男		名大 10	静大 8	岐大 6	名工大 5	三重大 4	浜松医科 3	豊技大 2	愛教大 1	
	女		愛教大 10	三重大 8	岐大 6	静大 5	名大 4	浜松医科 3	名工大 2	豊技大 1	
11 サ ッ カ ー			静大 10	岐大 8	名大 6	浜松医科 5	三重大 4	愛教大 3	名工大 2	豊技大 1	
12 ハンドボール			名大 10	愛教大 8	岐大 6	名工大 5	豊技大 4	三重大 3	静大 2	浜松医科 1	
13 柔 道			岐大 6	名大 5	静大 4	豊技大 3	名工大・愛教大各1.5				
14 剣 道	男		岐大 10	名大 8	静大 6	名工大 5	豊技大・愛教大・浜松医科・三重大各2.5				
	女		岐大 6	愛教大 5	静大 4	名大 3	浜松医科・三重大各1.5				
15 体 操	男		静大 5	岐大 4	三重大 3	名大 2	名工大 1				
	女		静大 4	岐大 3	愛教大・名大各0						
16 馬 術			三重大 6	名工大 5	名大 4	岐大 3	愛教大 2	静大 1			
17 空 手 道	男		名大 6	浜松医科 5	三重大 4	岐大 3	静大 2	名工大 1			
	女		浜松医科 4	名大 3	三重大・岐大各0						
18 弓 道	男		静大 8	名工大 6	名大・岐大各4.5		愛教大・浜松医科・三重大各2				
	女		岐大 8	静大 6	三重大 5	名工大 4	愛教大 3	名大 2	浜松医科 1		
19 アーチェリー			岐大 5	名大 4	愛教大 3	静大 2	三重大 1				
20 少林寺拳法			名大 8	静大 6	愛教大 5	三重大 4	岐大 3	豊技大 2	名工大 1		
総合順位	男		名大	岐大	静大	三重大	名工大	愛教大	豊技大	浜松医科	
	女		愛教大	岐大	静大	名大	三重大	浜松医科	名工大	豊技大	

(備考) 表中の大学名の右数字は得点を示す。

平成12年度 卒業・修了者就職先一覧

平成13年5月1日現在

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
一般企業					
1	アイカ工業(株)	0	1	0	1
2	(有)アイケイ通信	1	0	0	1
3	アイコクアルファ(株)	0	1	0	1
4	アイシン・エイ・ダブリュ精密(株)	0	1	0	1
5	アイシン精機(株)	0	1	0	1
6	愛知工業大学	0	0	1	1
7	(株)アイレックス	1	0	0	1
8	(株)アオイテック	0	1	0	1
9	(株)アクティス	1	1	0	2
10	(株)アクトリサーチ	0	1	0	1
11	旭化成工業(株)	0	1	0	1
12	旭硝子(株)	0	2	0	2
13	旭テック(株)	0	1	0	1
14	(株)アステック	0	1	0	1
15	アスモ(株)	0	5	0	5
16	アトックス(株)	0	1	0	1
17	(株)アネックス	1	0	0	1
18	アポロ電気(株)	0	1	0	1
19	(株)アマシャムファルマシアバイオテック	0	1	0	1
20	アラコ(株)	1	2	0	3
21	(株)アルトナー	1	0	0	1
22	(株)アルファシステムズ	0	1	0	1
23	(株)アルファ情報システムズ	0	1	0	1
24	(株)アルプス技研	1	1	0	2
25	安藤建設(株)	0	1	0	1
26	(株)医学生物学研究所	0	0	1	1
27	石川島播磨重工業(株)	0	1	0	1
28	イシグロ農材(株)	0	1	0	1
29	(株)イズミテック	0	1	0	1
30	イソライト工業(株)	0	1	0	1
31	(株)一条工務店	1	0	0	1
32	一宮市役所	0	1	0	1
33	伊藤光学工業(株)	0	1	0	1
34	(株)I N A X	0	1	0	1
35	(有)今井設計事務所	0	1	0	1
36	(株)インタライト	0	1	0	1
37	ヴァイタル・インフォメーション(株)	0	1	0	1
38	ウシオ電機(株)	0	1	0	1
39	宇宙技術開発(株)	0	1	0	1
40	(株)生方製作所	0	1	0	1
41	ATR音声言語通信研究所	0	0	1	1
42	エーディーエー建築企画(株)	1	0	0	1
43	S M C (株)	0	1	0	1
44	エヌエスエンジニアリング(株)	1	0	0	1
45	NSK・ワーナー(株)	0	1	0	1
46	エヌエスケー・ワーナー(株)	0	1	0	1
47	N O K (株)	0	1	0	1
48	エヌティーツール(株)	1	0	0	1
49	(株)NTTドコモ	0	1	0	1
50	(株)NTTドコモ関西	0	1	0	1
51	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ東海	0	2	0	2
52	櫻本工業(株)	0	1	0	1
53	(株)遠隔医療研究所	1	0	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
54	エンケイグループ	1	0	0	1
55	オーエスジー(株)	0	1	0	1
56	(株)大林組	0	1	0	1
57	(株)岡山村田製作所	1	1	0	2
58	沖ソフトウエア(株)	0	1	0	1
59	オムロン(株)	0	1	0	1
60	オムロン一宮(株)	0	1	0	1
61	海上自衛隊舞鶴教育隊	1	0	0	1
62	科学技術庁金属材料技術研究所	0	0	1	1
63	勝山三洋工業(株)	1	0	0	1
64	(株)金沢村田製作所	0	1	0	1
65	カミヤ不動産	0	1	0	1
66	刈谷木材工業(株)	1	0	0	1
67	環境エンジニアリング(株)	0	1	0	1
68	(株)管理工学研究所	0	0	1	1
69	(株)キーエンス	0	1	0	1
70	(株)キャタラー	0	1	0	1
71	キャノン(株)	0	1	0	1
72	(株)九州不動産鑑定所	0	1	0	1
73	京セラコミュニケーションシステム(株)	0	1	0	1
74	京都ダイカスト工業(株)	1	0	0	1
75	共立建設(株)	1	0	0	1
76	(株)橋梁メンテナンス	1	0	0	1
77	(株)熊谷組	1	0	0	1
78	クラリオン(株)	0	1	0	1
79	栗田工業(株)	0	1	0	1
80	経済産業省産業技術総合研究所	0	0	1	1
81	(株)ケイズ	0	1	0	1
82	(株)構造計画プラス・ワン	0	1	0	1
83	コーケン工業(株)	0	1	0	1
84	国際電気(株)	0	1	0	1
85	国土交通省中部地方整備局	1	0	0	1
86	コニカ(株)	0	1	0	1
87	小林記録紙(株)	0	1	0	1
88	(株)コベルコ科研	0	1	0	1
89	小松フォークリフト(株)	0	1	0	1
90	五洋建設(株)	0	1	0	1
91	厚生労働省雇用・能力開発機構	0	1	0	1
92	三共(株)	0	1	0	1
93	サンクス(株)	1	0	0	1
94	三洋精密(株)	1	0	0	1
95	三洋電機(株)	0	1	0	1
96	三立ブレコン(株)	1	0	0	1
97	三和工機(株)	1	0	0	1
98	(株)C I J	1	0	0	1
99	(株)C S K	0	1	0	1
100	静岡日本電気(株)	0	1	0	1
101	(株)システムラボムラタ	1	0	0	1
102	シナノケンシ(株)	0	1	0	1
103	(株)島津製作所	0	1	0	1
104	島根県庁	1	0	0	1
105	シャープ(株)	0	1	0	1
106	ジャトコ・トランステクノロジー(株)	1	0	0	1
107	(株)ジャパンアウトソーシング	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
108	信越化学工業(株)	0	1	0	1
109	シンキ(株)	1	0	0	1
110	神鋼電機(株)	0	1	0	1
111	神鋼パンテック(株)	0	1	0	1
112	新電元工業(株)	0	1	0	1
113	新東工業(株)	0	2	1	3
114	(株)スギノマシン	0	1	0	1
115	助政建設(株)	1	0	0	1
116	スズキ(株)	0	1	0	1
117	スター精密(株)	0	1	0	1
118	スターライト工業(株)	0	1	0	1
119	(株)住化分析センター	0	1	0	1
120	住友電気工業(株)	0	2	0	2
121	須山建設(株)	0	1	0	1
122	(株)スリーボンド	0	1	0	1
123	駿河精機(株)	0	1	0	1
124	セイコーエプソン(株)	1	3	1	5
125	積水ハウス(株)	0	1	0	1
126	セム	1	0	0	1
127	(株)ゼンエーフーズ	1	0	0	1
128	(有)造田組	1	0	0	1
129	曾我特許事務所	1	0	0	1
130	曾田香料(株)	0	1	0	1
131	ソニー(株)	0	4	0	4
132	ソニーLSIデザイン(株)	0	1	0	1
133	ソニー幸田(株)	0	1	0	1
134	ソニーブロードキャストプロダクツ(株)	0	1	0	1
135	ソフトウエア開発(株)	1	0	0	1
136	ソシコーポレーション(株)	1	0	0	1
137	(株)第一システムエンジニアリング	0	1	0	1
138	ダイイチ自動車学校	0	1	0	1
139	ダイエー観光(株)	1	0	0	1
140	大宏電機(株)	0	1	0	1
141	ダイコク電機(株)	1	0	0	1
142	大信精機(株)	0	1	1	2
143	大同特殊鋼(株)	1	0	0	1
144	大日本印刷(株)	0	1	0	1
145	大日本プラスチック(株)	0	1	0	1
146	大和ハウス工業(株)	1	0	0	1
147	(株)タカラインコーポレーション	0	1	0	1
148	田中熱工(株)	0	1	0	1
149	地球環境産業技術研究機構	0	0	1	1
150	中央発條(株)	0	1	0	1
151	中電コンピュータサービス(株)	1	0	0	1
152	中部ガス(株)	0	1	0	1
153	中部管区警察局	0	1	0	1
154	著述家業(自営)	1	0	0	1
155	(株)鶴弥	0	1	0	1
156	(株)ティ・アイ・シイ	0	1	0	1
157	(株)ティエスティ	0	1	0	1
158	(株)ティスコ	0	1	0	1
159	(株)TYK	0	1	0	1
160	(株)テクシア	1	0	0	1
161	(株)デンソー	0	2	0	2

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
162	(株)デンソークリエイト	1	1	0	2
163	デンソーテクノ	0	2	0	2
164	東亜道路工業	0	1	0	1
165	(株)東海クレオ	0	1	0	1
166	東海光学	1	1	0	2
167	(株)東海理化電機製作所	0	1	0	1
168	東京エレクトロン	1	0	0	1
169	東京エレクトロンFE	0	1	0	1
170	東京エレクトロン山梨	0	1	0	1
171	東京ガス	0	1	0	1
172	(株)東芝	0	4	0	4
173	東芝機械	1	0	0	1
174	東芝セラミックス	0	2	0	2
175	東芝テック	0	1	0	1
176	東電ソフトウエア	0	1	0	1
177	東陶機器	0	1	0	1
178	東邦電気	1	0	0	1
179	(株)東洋技研	0	1	0	1
180	東洋鋼板	1	0	0	1
181	東洋紡績	0	1	0	1
182	東レ・プレシジョン	1	0	0	1
183	(株)トーマー	0	1	0	1
184	凸版印刷	0	1	0	1
185	トビー工業	0	2	0	2
186	(株)トミー精工	0	1	0	1
187	(株)富山村田製作所	0	1	0	1
188	豊田合成	0	1	0	1
189	(株)トヨタシステムリサーチ	0	2	0	2
190	(株)豊田自動織機製作所	0	2	0	2
191	トヨタ住宅	0	1	0	1
192	(株)トヨタテクノサービス	1	0	0	1
193	トヨタホーム名古屋	0	1	0	1
194	(株)トヨタマックス	0	3	0	3
195	(株)豊通テレコム	0	1	0	1
196	豊橋技術科学大学	0	0	3	3
197	豊橋市役所	1	1	0	2
198	豊橋銅料	0	1	0	1
199	名古屋セキスイハイム建設	0	1	0	1
200	(株)ナムコ	0	1	0	1
201	西松建設	0	1	0	1
202	(株)日産アーク	0	0	1	1
203	ニチコン	0	1	0	1
204	日清紡績	1	0	0	1
205	(株)ニッセイ	0	1	0	1
206	日星電気	0	1	0	1
207	日総工業	0	1	0	1
208	日特建設	0	1	0	1
209	(株)ニデック	0	2	0	2
210	日本板硝子	0	1	0	1
211	日本硝子	0	2	0	2
212	日本科学冶金	0	1	0	1
213	日本原子力研究所	0	0	1	1
214	日本鋼管	0	1	0	1
215	日本システムウエア	0	1	0	1
216	日本テレコム	0	1	0	1
217	日本電気	0	1	0	1
218	日本電気移動通信	0	1	0	1
219	日本電気マイコンテクノロジー	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
220	日本電産	0	1	0	1
221	日本電子	0	1	0	1
222	日本電信電話	0	1	0	1
223	日本電波工業	0	1	0	1
224	日本特殊陶業	0	3	0	3
225	(株)日本ボイラーメンテナンス社	1	0	0	1
226	日本無機	0	1	0	1
227	日本メカケミカル	0	1	0	1
228	(株)ネオテクノ	1	0	0	1
229	ノーリツ鋼機	0	1	0	1
230	(株)パトライト	1	0	0	1
231	(株)パナホーム名古屋	0	1	0	1
232	林テレンプ	0	2	0	2
233	(株)パンテック	1	0	0	1
234	BASF JAPAN LTD.	0	1	0	1
235	日立アプリケーションシステムズ	1	0	0	1
236	(株)日立インフォメーションサービス	0	1	0	1
237	日立エスケイノージャナルシステム	0	1	0	1
238	日立化成工業	0	1	0	1
239	日立金属	0	2	0	2
240	日立建機	0	1	0	1
241	(株)日立製作所	0	5	1	6
242	日立ソフトウェアエンジニアリング	0	1	0	1
243	日立東北ソフトウエア	0	1	0	1
244	(株)日立ビルシステム	0	1	0	1
245	(株)ヒミカ	0	1	0	1
246	福井鐵工	1	0	0	1
247	(株)富士カーボン製造所	0	1	0	1
248	富士機械製造	0	1	0	1
249	フジクリーン工業	0	1	0	1
250	富士精工	1	0	0	1
251	富士通	0	1	0	1
252	(株)富士通愛知エンジニアリング	0	1	0	1
253	富士通関西中部ネットテック	0	1	0	1
254	(株)富士通コンピュータテクノロジー	0	1	0	1
255	(株)富士通ゼネラル	1	0	0	1
256	(株)富士通中部システムズ	0	2	0	2
257	富士通テン	0	1	0	1
258	富士通 V L S I	0	1	0	1
259	(株)富士通北陸システムズ	0	1	0	1
260	富士電機	0	1	0	1
261	富士電気化学	0	2	0	2
262	富士ハウス	1	1	0	2
263	(株)フジインコーポレーテッド	0	1	0	1
264	(株)フジユニバース	0	1	0	1
265	藤吉工業	0	1	0	1
266	(株)ブリヂストン	0	1	0	1
267	(株)フルキャストウイズ	0	1	0	1
268	貿易関係の会社	0	1	0	1
269	ホシザキ電機	0	1	0	1
270	北海道ビジネスオートメーション	1	0	0	1
271	(株)ボッシュオートモーティブシステム	0	1	0	1
272	本田技研工業	0	3	0	3
273	本多電子	0	1	0	1
274	(株)マイソックス	0	1	0	1
275	マックス	1	0	0	1
276	松下寿電子工業	0	1	0	1
277	松下システムテクノ	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
278	松下精工	0	1	0	1
279	松下通信工業	0	2	0	2
280	(株)松下通信静岡研究所	0	1	0	1
281	松下電器産業	0	5	0	5
282	松下電子工業	0	0	1	1
283	マツダ	0	1	0	1
284	松調査設計	1	0	0	1
285	丸トポーターリー食品	0	1	0	1
286	(株)MARUWA	0	1	0	1
287	MARUWA (MARAYSIA) SDN. BHD	1	0	0	1
288	(株)ミサワホーム静岡	0	1	0	1
289	三井金属鉱業	0	1	0	1
290	三井造船	0	2	0	2
291	三菱自動車工業	0	1	0	1
292	三菱重工業	0	1	0	1
293	三菱電機ビルテクノサービス	0	1	0	1
294	三菱マテリアル	0	1	0	1
295	ミトワゴム	0	1	0	1
296	ミノル工業	1	0	0	1
297	ミノルタ	0	3	0	3
298	宮崎市役所	0	1	0	1
299	(株)村田製作所	1	0	0	1
300	(株)メイテック	1	0	0	1
301	(株)メイテックコム	0	1	0	1
302	名鉄自動車整備	1	0	0	1
303	(株)明電舎	0	1	0	1
304	(株)メックインターナショナル	0	1	0	1
305	メニコン	0	1	0	1
306	(株)モアコーポレーション	0	1	0	1
307	森組	0	1	0	1
308	八木建設	1	0	0	1
309	矢崎総業	0	1	0	1
310	安田技研	1	0	0	1
311	(株)山武	0	1	0	1
312	ヤマハ	0	2	0	2
313	ヤンマーディーゼル	0	1	0	1
314	ユーアイ電子	1	0	0	1
315	雪印乳業	0	1	0	1
316	ライト工業	1	0	0	1
317	(株)リコー	0	1	0	1
318	リコー光学	0	1	0	1
319	理容美容カモメ館	1	0	0	1
320	菱和設備	0	1	0	1
321	リンナイ	0	1	0	1
322	(株)麗光	0	1	0	1
323	老人保健施設たんぼぼ	1	0	0	1
324	ローム浜松	0	1	0	1
325	ローランド	0	2	0	2
326	(株)ロッテリア	0	1	0	1
327	(株)ワイ・イー・シー	0	1	0	1
328	合資会社ワムソフト	0	1	0	1
合計		79	296	17	392

※: 社会人卒業・修了者の復職を除く。

計	就職者 (男子)	66267	16349
	(女子)	1329	143
	復職者	61	916
	合計	85297	26408

同窓会事務局より会員の皆様へ

ご挨拶

同窓会会長（5系4期） 後藤泰男

(E-mail: goto@i2.inax.co.jp)

平成13年9月のアメリカでの同時多発テロにより亡くなられた方々に、追悼の意を表します。現在（2001.10.06）まで、この事故の影響を身近に受けた同窓生に関する情報は届いておりませんが、何らかの形で職場や知人等への影響があった方も多いと思います。

この原稿を数ヶ月前に依頼されたにもかかわらず締め切りを過ぎて書いていますが、原稿を書き出して初めて、同時多発テロの後に起こさなければいけない同窓会の行動に気がつきました。豊橋技術科学大学の同窓生の何人かは海外で活躍されているわけで、同窓生が何らかの形で被害にあっていた可能性は皆無ではなかったかもしれません。本来なら、事故発生後に情報収集を行い、もし関わっていた同窓生があったらいち早く情報を発信するなどの行動を起こさなければいけなかったはずですが。このテロが起きた当日、イギリスの軍事産業関連の企業と打ち合わせしていた知人の話を聞くと、「テロが起こった30分後には軍隊から全外国人に対する職務質問を受けた」と言っていました。もちろん、軍事産業と同窓会を同じ土俵で比較しようなどとは思いませんが、日本人の危機管理に対する甘さを改めて認識させられるとともに、これほど堅苦しく考えることはないかと思いますが、同窓会の役割ということについてふと考えさせられた事件でもありました。

おそらく、上述の事件ほどまで大きな事件ではないにしろ、同窓生になにか（良い事も悪い事も含めて）起こった時に、同窓生間や大学との連絡には必ず役に立てる情報は、同窓会事務局で管理しています。ただ、昨年発行した同窓会名簿をご覧になった方には既に実感されているかと思いますが、これらの情報は、残念ながら不備が多いことも事実です。情報化社会が発達して個人情報的重要性がますます増す中で、同窓会の役目のひとつに同窓生の個人情報の管理もありますが、これは皆様方のご理解とご協力がなければできないことです。今後とも、皆様方にはご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、同窓生の皆様のご多幸とご活躍をお祈り申し上げまして、結びとさせていただきます。

平成13年10月6日

追記；豊橋技術科学大学同窓会発行の名簿とほぼ同じ名簿が高価で売買されている話も聞いています。

豊橋技術科学大学同窓会においては、はがき等で販売のみの案内はいたしておりません。また、今後はホームページの内容を充実させて、同窓生が必要なときに必要な情報のみを発信できるしくみを構築したいとも考えています。

…………… 同窓会事業報告および予定（平成12年度～平成13年度）……………

1. 会報の発行

平成12年度の会報（18号）を、平成13年1月に発行・発送した。

2. 同窓会名簿の発行

豊橋技術科学大学同窓会名簿（第4号）を、平成12年9月に発行し、189部を販売した。

3. 同窓会総会の実施

平成13年3月24日に豊橋技術科学大学D棟514会議室にて第7回豊橋技術科学大学同窓会総会を開催した。後藤泰男新会長を始めとする同窓会役員選出、慶弔規定に関する同窓会会則の改正、平成8年度から11年度までの同窓会事業報告および収支決算報告、および平成12年度から15年度までの事業計画が承認された。

4. 同窓会ホームページの開設

平成12年10月31日に、同窓会ホームページ (<http://www.tut-ob.org>) を開設した。

5. 卒業記念パーティーの開催

新会員の同窓会活動への理解を深めてもらうために、在 student で構成される学友会との共催で、卒業記念パーティーを開催した。出資金額は、例年通り25万円とした。平成13年度についても、同様とする。

6. 技科大祭への資金援助

在校生への同窓会の存在をアピールするために、平成6年度から技科大祭に資金援助を行っている。平成12年度も、例年通り、10万円の資金援助を行った。平成13年度も同額の資金援助を行う。

7. クラブへの資金援助

学友会を通じて、対外的にもっとも成績や活躍が優秀なクラブにクラブ奨励金を、資金援助の必要性の高いクラブにクラブ奨励金を支給している。平成12年度は、クラブ奨励金50,000円をロボコン同好会に、クラブ奨励金50,000円を硬式庭球部に資金援助した。平成13年度も10万円を予算として計上している。

8. 役員会の実施

平成12年4月22日および、平成13年4月22日に、豊橋技術科学大学生産システム工学系会議室にて役員会を開催した。これからも、年1回の割合で役員会を実施していく。

9. 同窓会役員名簿 (平成13年12月現在)

名誉顧問：後藤圭司学長

会長：後藤泰男、副会長：佐藤裕久、事務局長：矢野賢一

- | | |
|---------------|---------------------------|
| 1系 (名簿担当) | : 関下信正, 感本広文 |
| 2系 (事務一般) | : 森田繁樹, 赤堀俊和, 澁谷秀雄 |
| 3系 (会計担当) | : 村本裕二, 見目喜重 |
| 4系 (ホームページ担当) | : 早坂太一, 高橋港一, 野口健太郎, 福田浩士 |
| 5系 (会報担当) | : 大北博宣, 武藤浩行, 斉戸美弘 |
| 6系 (総会・役員会担当) | : 山本一伸, 細田智久 |
| 7系 (援助活動担当) | : 澁澤博幸, 加藤博明, 山田 実 |
| 8系 (援助活動担当) | : 松澤有希子 |

会費の納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業生・修了生で入会費または、終身会費が未納の方は、該当する系の振込先へ納入くださいますようお願い申し上げます。

会 費

入会金	5,000円
終身会費	10,000円

振込先

1系：郵便振込

口座番号 00830-1-133305
加入者名 豊橋技科大エネルギー工学同窓会

2系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 773671
加入者名 豊友会

3系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学 3,4系同窓会

4系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学 3,4系同窓会

5系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 791362
加入者名 物質工学系同窓会

6系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 813330
加入者名 建設工学同窓会

7系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884420
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

8系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884418
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

クラブ活動への援助報告

同窓会では、クラブ活動の活性化に貢献することを目的とし、以下の2種類の資金援助を行なっております。

- (1) 対外的に最も良い成績を収めたクラブに贈られる「クラブ奨励金」
- (2) 活発な活動を行っており、最も資金援助が必要なクラブに贈られる「クラブ援助金」

平成13年度は、軟式野球部にクラブ奨励金(5万円)が、コンピュータークラブにクラブ援助金(5万円)が、それぞれ贈られることになりました。

軟式野球部

電気・電子工学課程4年 松前友広

この度は、我々軟式野球部に同窓会からの御援助を頂き、ありがとうございます。

現在、軟式野球部は、博士1年1名、修士2年2名、修士1年3名、学部4年7名、学部3年2名、学部1年2名の合計17名で活動をしています。練習は毎週土曜日の10:00～12:00の2時間ですが、不定期に練習試合を行い、大会に参加することで、各個人の野球技術が向上するように努力しています。

大会へは、7月に行われている、東海地区国立大学体育大会に、準硬式野球で参加しています。また、平成11年度から豊橋野球協会にも加盟し、4・6・8・10・2月に行われているトーナメント形式の軟式野球大会にも参加しています。

今年の東国体は、目標である優勝はできませんでしたが、1回戦の名古屋大学戦を1-7で勝利し、悲願の初戦突破をすることができました。2回戦での岐阜大学戦で

は6-0から6-6まで追いつく善戦をしましたが、最後は力尽き10-8で敗れました。

豊橋野球協会の軟式野球大会に、昨年度はC級として、5回の大会に参加しました。結果は、参加76チームで行われた第25回豊橋野球協会旗争奪軟式野球で準優勝、参加56チームで行われた第37回豊橋市長旗争奪軟式野球大会でベスト4、大会参加80チームで行われた第42回B・C級軟式野球大会でベスト8となり、これらの成績が認められ、今年度からB級に昇格することができました。

今、我々軟式野球部はチームとして強くなったと思います。しかし、これら成績の向上は、卒業された先輩方が、築き上げてきたものの積み重ねであって、今の1代でできたものではありません。卒業された先輩方に胸を張れるように、そして、これからの目標である、東国体での優勝とB級での初勝利に向けて日々努力していきますので、今後とも応援よろしくをお願いします。

コンピュータークラブ

代表 水引孝至

この度はコンピュータークラブへ援助を頂き、大変感謝しております。ありがとうございます。コンピュータークラブでは、現在32名の部員で活動しております。主な活動は、情報処理センターで毎年行われる、コンピュータ利用技術に関する講習会の企画・実施や、知能ロボット製作プロジェクト、技科大祭に向けてのレクリエーション作品製作などです。また、週に一度ミーティングを開き、活発な議論を行っています。

情報処理センターで行われる講習会では、昨年(平成12年度)は「全文検索システムNamazu」、今年度(平成13年度)は「バージョン管理システムCVS」を担当しました。この講習会は、毎年好評を頂いており、今後も続けていく所存です。

ロボット製作プロジェクトでは、「SAIBO」と名付けた知

能ロボットを設計・製作しています。このロボットの設計データ及び制御プログラムは、WWW上で公開しており、コンピュータークラブのホームページ(<http://cclub.cc.tut.ac.jp/>)から取得することができます。このプロジェクトも各方面から高い評価を得ており、我々としても大変嬉しく思っております。近々、コンテストなどに出品する予定です。

同窓会の皆様から頂きました御援助は、書籍代やコンピュータの補修部品代、ロボット製作プロジェクトで使用する電子部品の購入などに充てる予定です。

我々の活動について深くご理解いただき、援助して頂いたことに、重ねて感謝するとともに、これを励みに一層精進していく所存であります。ありがとうございます。

同窓会平成12年度収支報告および平成13年度予算案

項 目	平成12年度予算案	平成12年度決算	平成13年度予算
■収入の部			
前年度繰越金	7,797,336	7,797,336	8,792,931
入 会 金	2,150,000	2,325,000	2,150,000
会 費	4,300,000	4,040,000	4,300,000
預 金 利 息	7,000	6,327	7,000
名 簿 代 金	0	754,720	—
同窓会報発送代行費用	900,000	782,334	800,000
小 計	7,357,000	7,908,381	7,257,000
収 入 合 計	15,154,336	15,705,717	16,049,931
■支出の部			
会 報 経 費	840,000	635,560	635,920
(印 刷 代)	(800,000)	(600,420)	(600,420)
(原稿執筆御礼)	(40,000)	(34,000)	(34,000)
(会員以外への会報発送)	(0)	(1,140)	(1,500)
役 員 会 経 費	30,000	17,000	30,000
(役 員 手 当)	(30,000)	(17,000)	(30,000)
卒業記念パーティー援助金	250,000	250,420	250,420
技科大祭後援金	100,000	100,420	100,420
クラブ活動資金援助	100,000	100,420	100,420
会報封筒作成代	200,000	150,420	—
庶務経費	100,000	96,418	100,000
Web関連経費	—	—	100,000
総会開催経費	500,000	61,945	—
会員への会費の返還	0	15,210	—
同窓会名簿作成	0	650,839	—
同窓会報発送代行費用	900,000	782,334	800,000
各系への会費の配分金	4,300,000	4,040,000	4,300,000
会費直接徴収手数料	0	11,800	—
小 計	7,320,000	6,912,786	6,417,180
次年度繰越金	7,834,336	8,792,931	9,632,751
支 出 合 計	15,154,336	15,705,717	16,049,931

* 豊橋技術科学大学同窓会会則 *

第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 (1) 会員名簿の発行
 (2) 会報の発行
 (3) 総会の開催
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
 (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
 (2) 会長 1名
 (3) 副会長 2名 (庶務担当)
 (4) 理事 原則として各系2名
 (5) 顧問 若干名
 第7条 本会の役員の選出は、次の各号に定めるところにより行う。
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。
 第8条 本会役員の任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。
 第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。
 第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。
 (1) 庶務
 (2) 会計
 (3) 会報の編集、発行
 (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
 (5) 会員名簿の管理

- (6) 監査
 (7) その他、本会の事業全般
 2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
 第14条 理事会は次の事項を審議する。
 (1) 本会の事業の運営に関する事項
 (2) 事業報告及び決算報告
 (3) 事業計画案及び予算案
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項
 (5) その他、本会の運営に関する議案
 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
 (1) 会則の制定・改廃
 (2) 事業計画及び収支予算案
 (3) 事業報告及び収支決算案
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
 (1) 入会金 5,000円
 (2) 終身会費 10,000円
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
 2 平成4年度及び5年度在学生会は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。